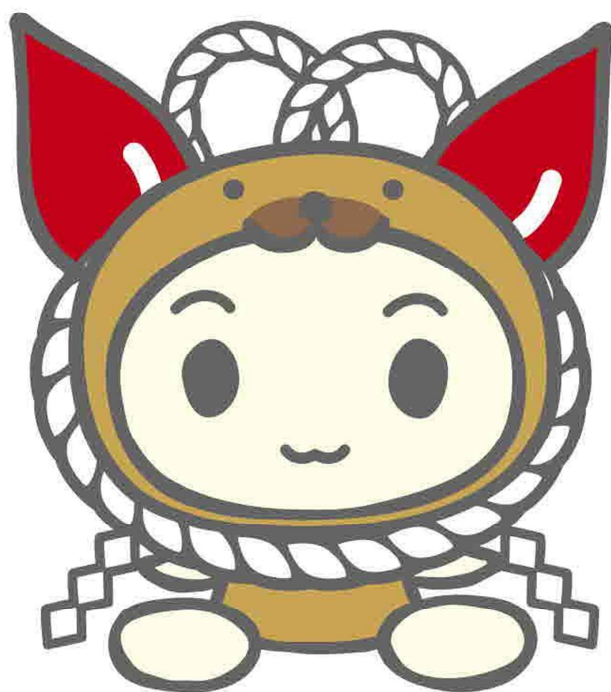


血液事業の現状

令和7年度



献血キャラクター **けんけつちゃん**

高知県健康政策部薬務衛生課

は じ め に

本県の血液事業は、昭和40年5月に採血業務を開始以来、60年を経過し、多くの方々から献血にご協力いただいております。

令和6年度は、27,710人の方に献血にご協力いただき、県内の輸血を必要とされる方へ、血液製剤を提供することができました。

これもひとえに、県民の皆様のご理解とご協力によるものと深く感謝しております。

さて、全国における献血状況につきましては、少子高齢化の進行に伴う献血可能人口の減少や、若年層の献血離れ等の影響もあり、献血協力者の確保が一層厳しい状況が続いております。

本県におきましては、県民の皆さまのご協力もあり、平成29年度より献血者数、献血量ともに増加傾向にありましたが、昨年度は令和5年度から微減しております。また、若い世代（10代・20代）の献血者数は、直近10年で約6割に減少しており、将来にわたり血液を安定的に供給するためには、こうした若い世代の献血への参加が喫緊の課題となっております。

このため、県では、学生ボランティアの協力も得て啓発キャンペーン等を実施することにより、若年層を中心に血液及び献血への正しい知識の普及啓発の取組みを強化するとともに、引き続き、市町村及び高知県赤十字血液センターをはじめとした関係機関と連携し、血液事業の普及・啓発、献血組織の育成強化や医療機関での血液製剤の適正使用を図っていきたいと考えております。

県民の皆さまには、本事業の重要性を十分にご理解いただきまして、今後ともより一層のご支援とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、この冊子は、令和6年度の本県の血液事業の現状をとりまとめたものとなります。参考にしていただければ幸いです。

令和8年3月

高知県健康政策部

薬務衛生課長

大森 真貴子

目 次

I	令和6年度血液事業の概要	1
II	献血に関する基礎知識	8
III	令和6年度血液事業の成果	10
1	献血状況	
(1)	年度別献血状況	10
(2)	市町村別献血実績	12
(3)	性別・年代別献血状況	13
(4)	職業別献血状況	15
(5)	献血種類別・受入施設別献血状況	16
(6)	献血ができなかった人数及び検査不合格血液の状況	16
2	供給状況	
(1)	供給本数等	18
(2)	年度別供給状況	19
IV	献血目標量	20
V	献血推進組織	21
VI	血液事業の役割分担	22
VII	令和6年度高知県献血推進計画	22
資料		
I	わが国の血液事業のあゆみ	28
II	本県の血液事業	
1	沿革	32
2	献血運動推進全国大会開催状況	40
3	高知県献血推進県民大会開催状況及び表彰式開催状況	45
4	献血者及び血液製剤供給本数の推移	54
5	令和6年度都道府県別献血者数	56
6	献血場所	57
7	高知県赤十字血液センターの概要	57

I 令和6年度血液事業の概要

1 高知県献血推進計画の策定

都道府県においては、「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」（昭和31年法律第160号）第10条第5項の規定に基づき、毎年、採血事業者による献血の受入れが円滑に実施されるよう献血推進計画を策定することになっており、本県においても「令和6年度高知県献血推進計画（22頁参照）」を策定した。

令和6年度において、国から本県に割り当てられた量（令和6年度割当量：8,774L）等に基づき、献血による確保すべき献血者の目標数及び血液の目標量、また当該目標に対する達成率は下表のとおりであった。

○令和6年度高知県献血推進計画における献血目標及び達成率

採血区分	献血者数			献血量			
	目標(人)	実績(人)	達成率(%)	目標(L)	実績(L)	達成率(%)	
全血献血	400mL	19,615	18,936	96.5	7,846.0	7,574.4	96.5
	200mL	264	210	79.5	52.8	42.0	79.5
		19,879	19,146	96.3	7,898.8	7,616.4	96.4
成分献血		8,582	8,564	99.8	4,843.0	5,141.5	106.2
合計		28,461	27,710	97.4	12,741.8	12,757.9	100.1

(注) 献血量実績(L)は、日本赤十字社血液事業本部「令和6年度血液事業年度報（令和6年4月～令和7年3月累計）」掲載データを使用。

2 令和6年度市町村献血担当者ブロック会議の開催

- ・ 日程及び場所：令和6年8月19日（月） 高知県赤十字血液センター
- ・ 内 容：令和5年度献血事業の概要、令和6年度献血推進計画について

3 高知県合同輸血療法委員会の開催（血液製剤の適正使用）

県内医療機関の血液製剤の使用状況を分析・評価し、情報を共有することにより、血液製剤の適正使用の推進を図ることを目的に開催。

- ・ 日程及び場所：令和6年8月23日（金） 高知県庁2階 第二応接室
- ・ 内 容：廃棄血・血液製剤の使用状況について、血液製剤の院内備蓄量について、高知県における血液製剤使用実態等について

4 第61回高知県献血推進協議会の開催

- ・ 日程及び場所：令和7年3月18日（火） 高知県庁2階 第二応接室
- ・ 協 議 事 項：「令和7年度高知県献血推進計画」などについて

5 広報活動

献血の重要性、必要性について広く県民の皆さまにご理解とご協力をいただくため、市町村や高知県赤十字血液センター（以下、血液センター）など関係団体と連携し、各種キャンペーンの開催や広報誌、ポスター、チラシの配布、また、各報道機関の活用等により、献血に関する知識の普及と啓発に努めた。

<作成資材・ポスター等の配布実績>

① 献血呼びかけポケットティッシュ

街頭での啓発活動時や献血協力者に対して配布。

② 血液事業の現状 令和6年度

令和5年度実績や血液事業の沿革などを記載。

③ その他啓発資材

- ・「はたちの献血キャンペーン」啓発イベントに合わせたモバイルバッテリーを作成し、献血協力者に配布。
- ・献血啓発の付箋紙を作成し、啓発活動時や献血協力者に配布。

6 『愛の血液助け合い運動』月間（7月1日から7月31日まで）

（1）関係資材

「愛の血液助け合い運動」キャンペーンポスター（厚生労働省作成）



【配布先】市町村、福祉保健所、県税事務所、土木事務所、警察署、私立高校、高知市教育委員会、県教育委員会（公立高校への掲示依頼）、県内大学・専門学校等

（2）第60回献血運動推進全国大会

- ・日程及び場所：令和6年7月18日（水） 岐阜県（長良川国際会議場 メインホール）
- ・内 容：献血推進運動に積極的に協力し、功労のあった団体等に厚生労働大臣から表彰状及び感謝状が贈呈された。なお、本県では以下の団体が受賞。
 - ・厚生労働大臣表彰状：防衛省 陸上自衛隊 高知駐屯地
 - ・厚生労働大臣感謝状：柳生基礎センター株式会社
西日本高速道路株式会社 四国支社
高知高速道路事務所

(3) 令和6年度献血功劳者表彰式

- ・日程及び場所：令和6年9月9日（月） 高知県庁2階 第二応接室
- ・内 容：第60回献血運動推進全国大会における厚生労働大臣表彰状（上記（2）のとおり）の伝達贈呈、並びに献血の推進に積極的に協力し、他の模範となる実績を示した以下の団体に対し、高知県知事感謝状の表彰を行った。
 - ・高知県知事感謝状：高知東郵便局



(令和6年度献血功劳者表彰式 出席者)

7 はたちの献血キャンペーン（1月1日～2月28日）

（1）関係資材

「はたちの献血」キャンペーンポスター（厚生労働省作成）



【配布先】市町村、福祉保健所、県税事務所、土木事務所、警察署、私立高校、高知市教育委員会、県教育委員会（公立高校への掲示依頼）、県内大学・専門学校等

（2）啓発イベント開催

「はたちの献血」啓発イベント「誰かの明日を考える。はたちの献血」

・日程及び場所：令和7年1月13日（月・祝） イオンモール高知 南コート

・内 容：【ステージパフォーマンス】計41名参加

岡豊高校、高知東高校

【ブース展開】

献血広報コーナー、献血疑似体験コーナー、キッズブース（ぬりえ等）、アンケートブース、骨髄バンクドナー登録ブース

【高校生等による献血の呼びかけ】計36名参加

高知東高校、土佐中・高校、土佐女子高校、山田高校

高知県学生献血クロス倶楽部（大学生）

【その他】

パリパラリンピック銀メダリスト・鬼谷慶子選手からのメッセージ動画放映、献血〇×クイズ大会（ステージイベント）、参加者アンケート、啓発資材配布 等



<参加者アンケート結果（一部抜粋）>

○回答者属性

(人)

15歳以下	16～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
17	26	16	23	22	16	10	6	136

○イベント参加のきっかけ

	たまたま・通りすがり	広告等を見て	知人からの声かけで	その他	無回答
人数(人)	74	17	18	27	0
割合(%)	54.4	12.5	13.2	19.9	0

○献血経験の有無

	ある	ない	献血可能 対象でない	無回答
人数(人)	64	39	32	1
割合(%)	47.1	28.7	23.5	0.7

○献血に行った、または関心をもったきっかけ

	呼びかけを 聞いて	知人からの 声かけ	イベント 等を見て	献血出前 講座の受講	その他	行ったことがない ・無関心	無回答
人数(人)	51	17	19	11	14	16	8
割合(%)	37.5	12.5	14	8.1	10.3	11.8	5.9

○イベントに参加し、献血を試みようと思ったか

	思う	思わない	元々している	無回答
人数(人)	69	28	30	9
割合(%)	50.7	20.6	22.1	6.6

○イベントをきっかけに献血を試みようと思った理由（自由回答）

- ・人のためになるから、役に立ちたい、助けたいと思ったから（7名）
- ・元々やってみたくて思っていた（5名）
- ・対象年齢（献血基準）を満たしたらしい（6名）
- ・献血の知識や大切さ、必要としている人がいることを知ったから（6名）等

○ラブラッド認知率

	知っていた	初めて知った	知らない	無回答
人数(人)	40	39	55	2
割合(%)	29.4	28.7	40.4	1.5

8 若年層を対象とした普及啓発

(1) 小・中・高校生等を対象とした啓発

県教育委員会等を通じて下記文書等を県内学校へ発出し、献血の普及啓発を行った。

・献血啓発資材配布

厚生労働省及び日本赤十字社から各学校へ直接配布

①小学生対象：献血啓発冊子「みんなで学ぼう 血液のこと」

②中学生対象：献血啓発ポスター（各校一律3枚配布）

③高校生対象：献血啓発テキスト「けんけつ HOP STEP JUMP」

・「献血出前講座の実施について(依頼)」

令和7年2月13日付け6高薬衛1704号・高血献第32号の2

高知県健康政策部薬務衛生課長・高知県赤十字血液センター献血推進課長通知

(2) 献血出前講座の開催

献血可能年齢以前の早期から献血へ興味をもってもらうため、主に小、中、高等学校等の生徒を対象として、高知県赤十字血液センター職員による献血出前講座を開催し、献血に関する正しい知識の普及啓発を行った。

【出前講座内容】

- ・座学「血液と献血について」
- ・献血バスの見学 等



【令和6年度開催実績（令和5年度実績）】

- ・小学校（児童クラブ含む）：5校 延べ353名（令和5年度：8校 延べ543名）
- ・中、高等学校、専門学校：6校 延べ312名（令和5年度：5校 延べ611名）
- ・大学（R6年度から実施）：1校 延べ110名
- ・その他（新採職員研修等）：9回 延べ317名（令和5年度：8回 延べ295名）

(3) 高知県学生献血クロス倶楽部(※)による活動

・下記献血キャンペーン等において、オリジナルパネル等を用いた献血の呼びかけや献血者へのキャンペーンオリジナル記念品の配布、来場者アンケート等を実施した。

- ① 令和6年度中国四国学生統一献血キャンペーン（サマーキャンペーン 2024）
 - ・日程及び場所：令和6年7月21日（日） イオンモール高知
 - 令和6年9月29日（日） イオンモール高知
- ② 令和6年度全国学生クリスマス献血キャンペーン
 - ・令和6年12月8日（日） 高知刑務所（高知矯正展）
 - ・令和6年12月14日（土） イオンモール高知
- ③ 令和6年度「はたちの献血」啓発イベント
 - ・日程及び場所：令和7年1月13日（月・祝） イオンモール高知

・中四国地域の学生団体との交流や献血に関する会議及び研修会への参加を通じて献血への理解を深め、積極的に県内の献血推進活動に参加した。

※高知県学生献血クロス倶楽部：高知大学、高知県立大学、高知工科大学の学生で構成する学生献血推進ボランティア組織

9 献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の推進

献血率の減少傾向が続いている20代・30代の方を中心に、長期にわたる複数回献血への協力を促すため、様々な機会をとらえ献血 Web 会員サービス「ラブラッド(※)」の活用について啓発を行った。

※ラブラッド：献血会場での混雑の回避や滞在時間の短縮等、献血者に安心して安全な献血に協力いただくため、事前予約を可能とするアプリ。

会員登録することにより、血液センターより献血に関するお知らせ等が届くとともに、過去の献血記録や血液検査結果の確認が可能となる等のサービスを受けることができる。

○「ラブラッド」新規登録状況

年度	R3	R4	R5	R6
会員数（人）	1,888	1,748	1,743	3,440

II 献血に関する基礎知識

1 採血の種類及び採血基準

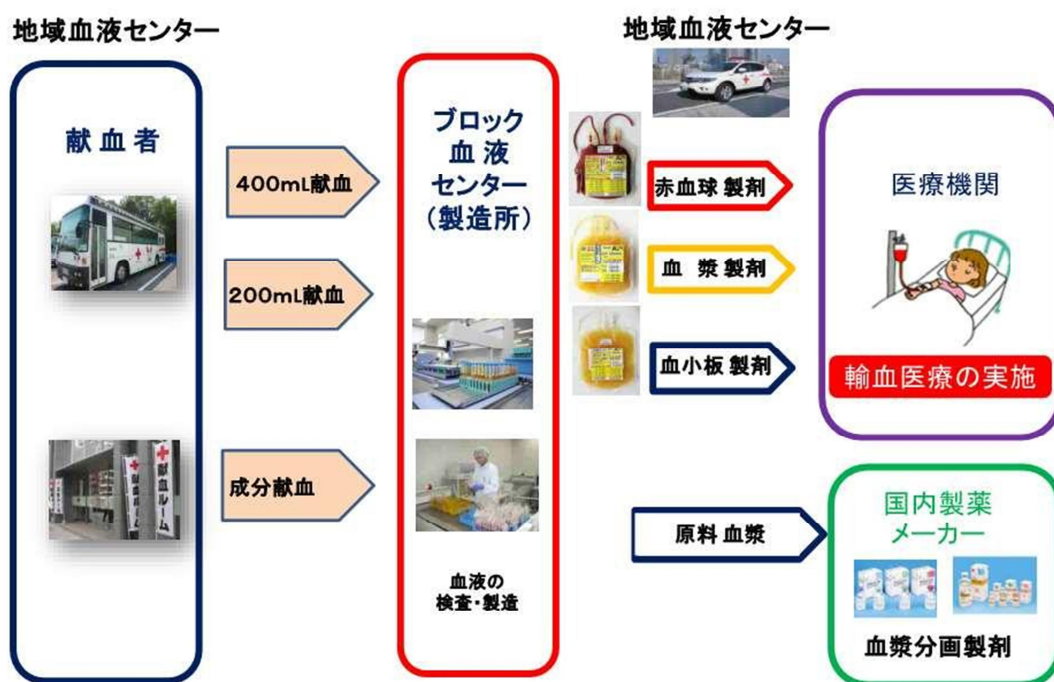
採血の種類	全血採血		成分採血	
	200mL	400mL	血漿	血小板
1回の採血量	200mL	400mL	600mL以下 (循環血液の12%以内)	
年齢	16～69歳	男性17～69歳 女性18～69歳	18～69歳	男性18～69歳 女性18～54歳
	ただし、65～69歳の方については、60歳に達した日から65歳に達した日の前日まで の間に採血が行われた方に限る。			
体重	男性45kg以上 女性40kg以上	男女50kg以上	男性45kg以上 女性40kg以上	
最高血圧	90mmHg以上180mmHg未満			
最低血圧	50mmHg以上110mmHg未満			
脈拍	40回/分以上100回/分以下			
体温	37.5℃未満			
採血間隔	(前回献血)			
	200mL全血	男女とも4週間後の同じ曜日から		
	400mL全血	男性は12週間後、 女性は16週間後の同じ曜日から	男女とも8週間後の同じ曜日から	
	血漿成分 血小板成分	男女とも2週間後の同じ曜日から (血漿を含まない場合には、1週間後に血小板成分採血が可能。 ただし、4週間に4回実施した場合には次回までに4週間あける。)		
年間総採血量	200mL及び400mL全血採血を合わせて 男性1,200mL以内、女性800mL以内		—	—
年間採血回数	男性6回以内 女性4回以内	男性3回以内 女性2回以内	血小板成分献血1回を2回分に換算して 血漿成分献血と合計で24回以内	
共通事項	<p>次の方からは採血しない。</p> <p>①妊娠していると認められる方、又は過去6ヶ月以内に妊娠していたと認められる方</p> <p>②採血により悪化するおそれのある循環系疾患、血液疾患その他の疾患に罹っていると認められる方</p> <p>③有熱者その他健康状態が不良であると認められる方</p>			

2 採血した血液のながれ

県内の献血者から採取された血液は、中四国ブロック血液センターにおいて、検査・製造工程を経た後、輸血用血液製剤や血漿分画製剤の原料血漿となる。

製造された輸血用血液製剤は、中四国各県に設置された赤十字血液センターで保管され、医療機関等からの供給要請を受け、患者のもとへ供給される。

一方、原料血漿は、一般社団法人日本血液製剤機構や民間製薬会社で血漿分画製剤（血液凝固因子製剤、アルブミン製剤、免疫グロブリン製剤等）として加工・製造され、卸売販売業者を通じて医療機関に供給される。



3 400mL 献血及び成分献血の推進

人間一人ひとりの血液は、血液型が同じであっても、成分が微妙に異なるため、複数の献血者の血液をあわせて一人の患者に輸血するほど、副作用（発熱、発疹など）発生の可能性が高くなる。

400mL 献血及び成分献血は、200mL 献血に比べて献血量が多いことから、少ない献血者からの輸血を可能にし、輸血の安全性を向上させる献血方法と言える。

このため、現在、献血者の健康状態について慎重に確認した上で、400mL 献血及び成分献血への協力を進めている。

Ⅲ 令和6年度血液事業の成果

1 献血状況

(1) 年度別献血状況

令和6年度における献血者数は27,710人（目標達成率97.4%、前年度比96.0%）であり、このうち200mL献血者は210人（目標達成率79.5%、前年度比:81.7%）、400mL献血者は18,936人（目標達成率96.5%、前年度比:97.2%）、成分献血者は8,564人（目標達成率99.8%、前年度比:93.9%）であった。

また、献血量は12,758リットル（目標達成率100.1%、前年度比96.9%）であり、昨年度より献血量が増加する結果となった。

表1 年度別献血状況

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	前年比	構成比	R6年度 目標値
200 mL(人)	1,069	1,146	991	458	404	493	421	280	257	210	81.7%	0.8%	264
400 mL(人)	22,308	20,904	19,394	18,632	18,542	19,227	19,155	19,651	19,480	18,936	97.2%	68.3%	19,615
成分(人)	7,278	7,657	7,137	7,842	8,203	9,707	9,048	8,966	9,117	8,564	93.9%	30.9%	8,582
計(人)	30,655	29,707	27,522	26,932	27,149	29,427	28,624	28,897	28,854	27,710	96.0%		28,461
献血量(L)	11,003	11,891	10,954	11,022	12,065	13,291	12,879	13,062	13,169	12,758	96.9%		12,742

(注) 表中の献血量(L)は小数点以下繰り上げで記載

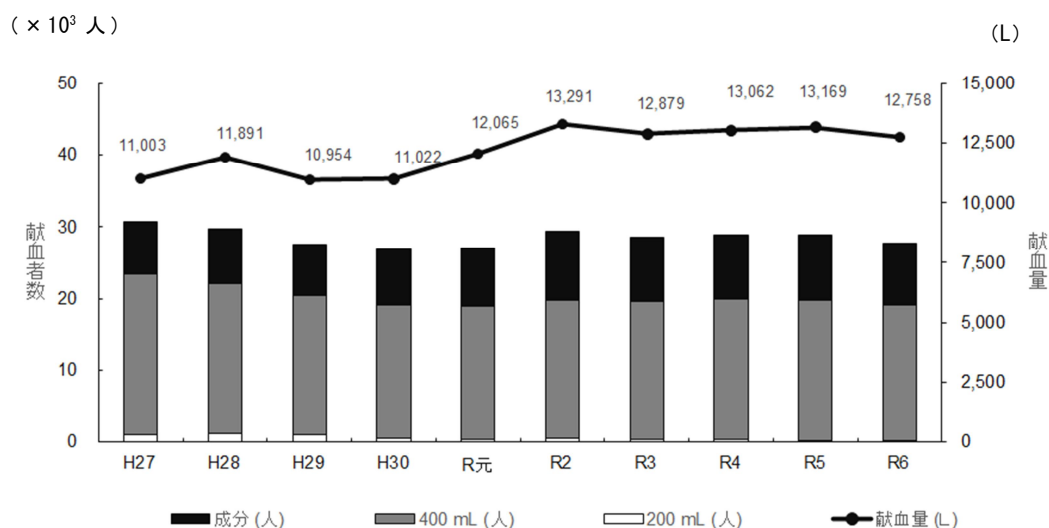


図1 献血者数と献血量の推移

月別献血者数状況を表2に、また、その推移を図2に示した。

令和6年度においては、献血者数が最も多い月は3月であり、最も低い月は8月であった。

表2 月別献血者数状況

月	献血者数(人)						献血量(L)							
	令和6年度					計	令和5年度		前年増減	前年比	令和6年度	令和5年度	前年増減	前年比
	200 mL	400 mL	血漿	血小板	成分計		計	計						
4	13	1,589	501	186	687	2,289	2,355	△ 66	97.2%	1047.9	1072.7	△ 24.8	97.7%	
5	18	1,560	564	190	754	2,332	2,428	△ 96	96.0%	1076.8	1100.2	△ 23.4	97.9%	
6	23	1,640	599	170	769	2,432	2,482	△ 50	98.0%	1118.1	1126.1	△ 8.0	99.3%	
7	21	1,432	562	165	727	2,180	2,338	△ 158	93.2%	1009.6	1066.1	△ 56.5	94.7%	
8	25	1,469	513	158	671	2,165	2,279	△ 114	95.0%	995.1	1033.3	△ 38.2	96.3%	
9	21	1,627	566	167	733	2,381	2,382	△ 1	99.96%	1093.6	1087.3	6.3	100.6%	
10	26	1,626	562	172	734	2,386	2,442	△ 56	97.7%	1091.2	1111.3	△ 20.1	98.2%	
11	12	1,556	550	158	708	2,276	2,450	△ 174	92.9%	1054.4	1114.2	△ 59.8	94.6%	
12	14	1,660	553	168	721	2,395	2,596	△ 201	92.3%	1100.7	1188.8	△ 88.1	92.6%	
1	9	1,536	532	157	689	2,234	2,435	△ 201	91.7%	1034.5	1116.3	△ 81.8	92.7%	
2	18	1,502	537	152	689	2,209	2,282	△ 73	96.8%	1021.9	1058.0	△ 36.1	96.6%	
3	10	1,739	516	166	682	2,431	2,385	46	101.9%	1114.3	1094.3	20.0	101.8%	
合計	210	18,936	6,555	2,009	8,564	27,710	28,854	△ 1,144	96.0%	12,757.9	13,168.6	△ 410.7	96.9%	

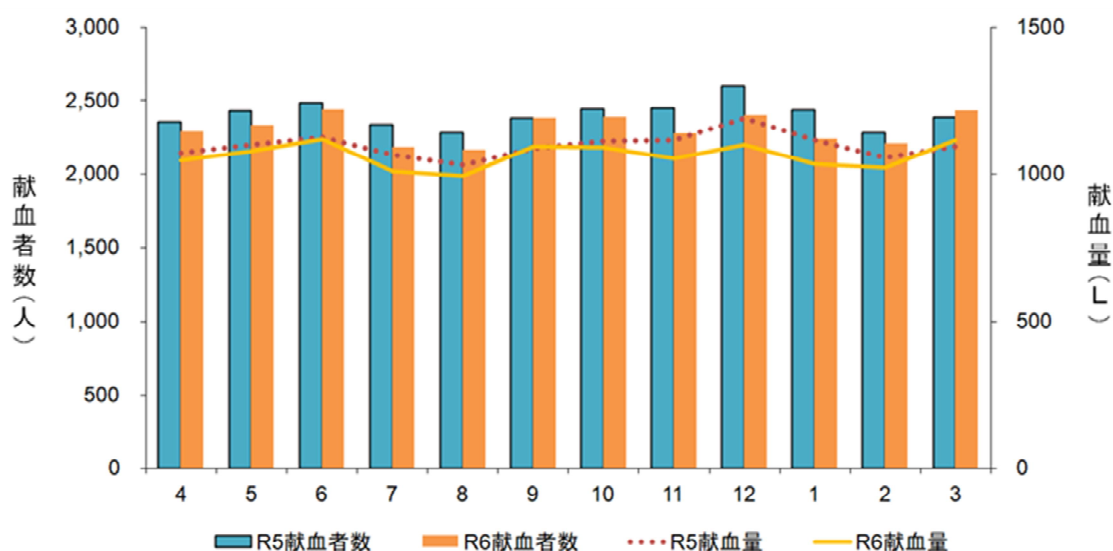


図2 月別献血者数の推移

(2) 市町村別献血実績

令和6年度の市町村別献血実績は表3のとおりであった。

表3 市町村別献血実績 (※配車の回数は、半日の場合は0.5で換算)

	配車 予定 回数	目標献血者数			配車 実施 回数	献 血 実 績			1台 平均	400m L 構成比 (%)	400m L 達成率 (%)	
		200mL	400mL	合 計		200mL	400mL	合 計				
安 芸	室 戸 市	3.5	0	160	160	3.5	0	139	139	39.7	100.0	86.9%
	東 洋 町	0.5	0	25	25	0.5	0	20	20	40.0	100.0	80.0%
	安 芸 市	6.0	0	255	255	6.0	0	277	277	46.2	100.0	108.6%
	奈 半 利 町	1.0	0	48	48	1.0	0	52	52	52.0	100.0	108.3%
	田 野 町	1.0	0	50	50	1.0	0	39	39	39.0	100.0	78.0%
	安 田 町	1.0	0	36	36	1.0	0	37	37	37.0	100.0	102.8%
	北 川 村	1.0	0	34	34	1.0	0	29	29	29.0	100.0	85.3%
	馬 路 村	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0.0	0.0%
	芸 西 村	2.0	0	72	72	2.0	0	52	52	26.0	100.0	72.2%
小 計	16.0	0	680	680	16.0	0	645	645	40.3	100.0	94.9%	
中 央 東	南 国 市	26.5	0	1,175	1,175	31.0	0	1,119	1,119	36.1	100.0	95.2%
	香 南 市	8.0	0	393	393	9.0	0	401	401	44.6	100.0	102.0%
	香 美 市	9.5	0	381	381	10.5	0	395	395	37.6	100.0	103.7%
	本 山 町	2.0	0	105	105	2.0	0	94	94	47.0	100.0	89.5%
	大 豊 町	1.0	0	40	40	1.0	0	37	37	37.0	100.0	92.5%
	土 佐 町	2.5	0	113	113	2.5	0	101	101	40.4	100.0	89.4%
	大 川 村	0.5	0	18	18	0.5	0	20	20	40.0	100.0	111.1%
	小 計	50.0	0	2,225	2,225	56.5	0	2,167	2,167	38.4	100.0	97.4%
高 知	高 知 市	171.0	0	7,873	7,873	198.5	0	7,311	7,311	36.8	100.0	92.9%
	土 佐 市	11.5	0	512	512	10.0	0	524	524	52.4	100.0	102.3%
中 央 西	い の 町	4.5	0	182	182	5.0	0	158	158	31.6	100.0	86.8%
	佐 川 町	3.0	0	130	130	3.0	0	112	112	37.3	100.0	86.2%
	越 知 町	1.5	0	58	58	1.5	0	50	50	33.3	100.0	86.2%
	仁 淀 川 町	2.5	0	90	90	2.5	0	80	80	32.0	100.0	88.9%
	日 高 村	3.0	0	120	120	3.0	0	117	117	39.0	100.0	97.5%
	小 計	26.0	0	1,092	1,092	25.0	0	1,041	1,041	41.6	100.0	95.3%
須 崎	須 崎 市	10.0	0	445	445	10.0	0	405	405	40.5	100.0	91.0%
	中 土 佐 町	3.0	0	165	165	3.0	0	148	148	49.3	100.0	89.7%
	橋 原 町	3.0	0	151	151	3.0	0	124	124	41.3	100.0	82.1%
	津 野 町	2.0	0	80	80	2.0	0	82	82	41.0	100.0	102.5%
	四 万 十 町	4.5	0	215	215	4.5	0	202	202	44.9	100.0	94.0%
小 計	22.5	0	1,056	1,056	22.5	0	961	961	42.7	100.0	91.0%	
幡 多	四 万 十 市	12.0	0	545	545	12.0	0	534	534	44.5	100.0	98.0%
	宿 毛 市	8.5	0	380	380	8.5	0	376	376	44.2	100.0	98.9%
	黒 潮 町	2.5	0	133	133	2.5	0	97	97	38.8	100.0	72.9%
	大 月 町	1.0	0	50	50	1.0	0	59	59	59.0	100.0	118.0%
	三 原 村	0.5	0	26	26	0.5	0	24	24	48.0	100.0	92.3%
	土 佐 清 水 市	3.0	0	145	145	3.0	0	176	176	58.7	100.0	121.4%
	小 計	27.5	0	1,279	1,279	27.5	0	1,266	1,266	46.0	100.0	99.0%
合 計	313.0	0	14,205	14,205	346.0	0	13,391	13,391	38.7	100.0	94.3%	
移動献血車合計					346.0	0	13,391	13,391	38.7	100.0		
ルー ム (全血)	358.0	264	5,280	5,544	357.0	210	5,545	5,755	16.1	96.4	105.0%	
全 血 計		264	19,485	19,749		210	18,936	19,146		98.9	97.2%	
					目 標			実 績		1日平均	達成率	
ルー ム (PPP)			6,600		357		6,555		18.4		99.3	
ルー ム (P C)			1,982		357		2,009		5.6		101.4	

200mL	400mL	PPP	PC	総 合 計
210	18,936	6,555	2,009	27,710

(3) 性別・年代別献血状況

献血者の性別の構成割合（図3）は、男性69.7%、女性30.3%であった。

また、年代別構成割合（図4）をみると、50-69歳の献血者が44.4%と最も多くを占めている。

表4 性別・年代別献血者数

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
200 mL	6	61	0	44	0	17	2	27	1	52	9	201	210
400 mL	388	235	1,737	895	2,142	936	3,154	1,306	5,644	2,499	13,065	5,871	18,936
血漿	33	24	417	286	495	440	1,099	548	2,285	928	4,329	2,226	6,555
血小板	14	0	221	8	216	37	569	38	883	23	1,903	106	2,009
合計	441	320	2,375	1,233	2,853	1,430	4,824	1,919	8,813	3,502	19,306	8,404	27,710

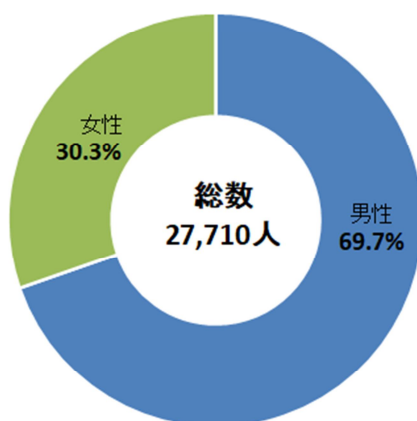


図3 献血者の性別構成割合

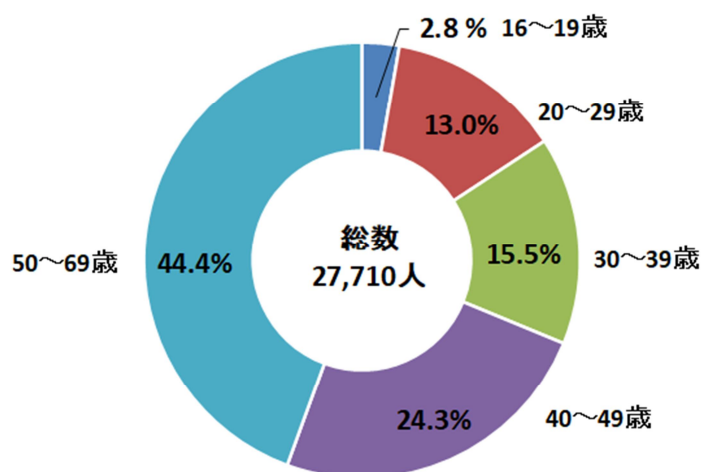


図4 献血者の年代別構成割合

令和6年度における高知県の献血率は、全国と比較すると性別献血率については男女ともに全国平均を上回っている。また、年代別では、20-50歳代において全国平均を上回る結果となっている（図5）。

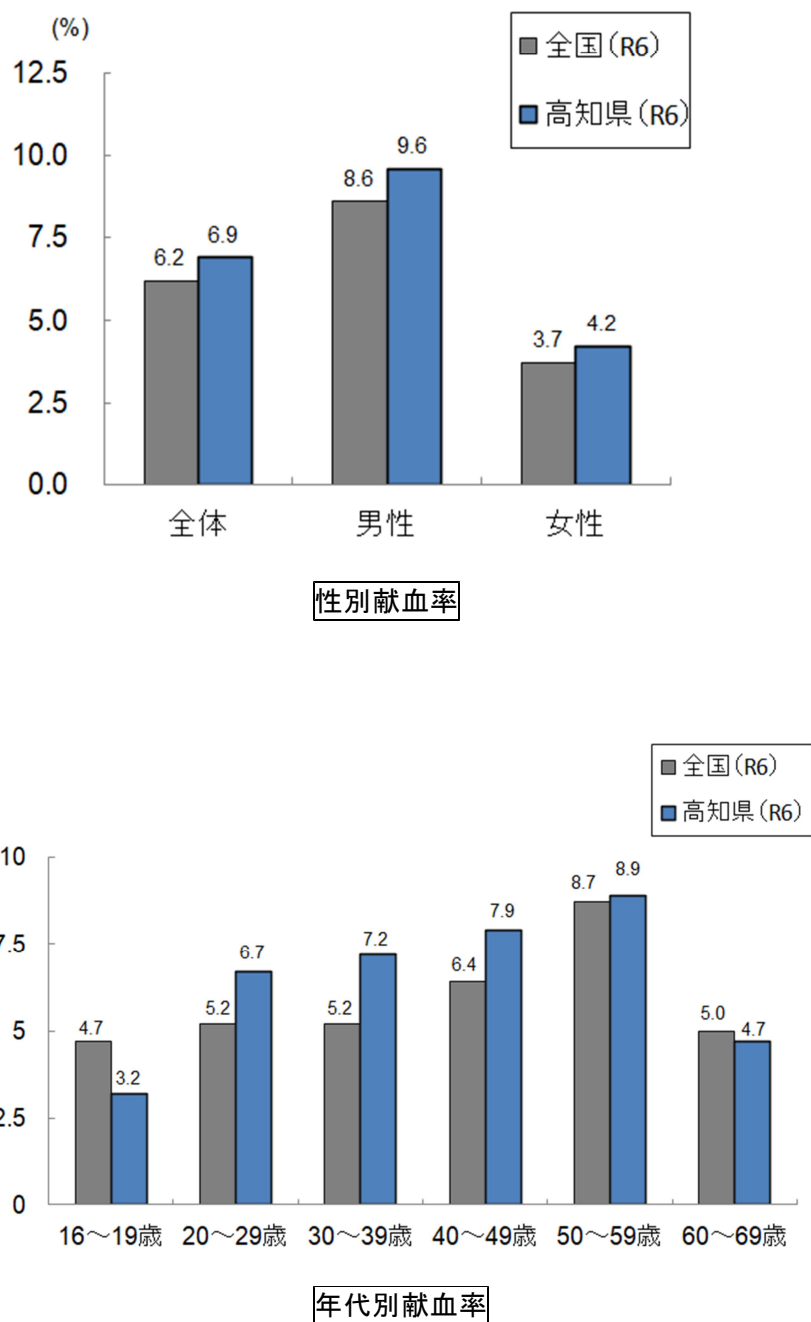


図5 令和6年度の性別、年代別献血率

(注) 令和6年度の献血者による献血率は、日本赤十字社血液事業本部「令和6年度血液事業年度報（令和6年4月～令和7年3月累計）」掲載データを使用。

年代別献血者数の推移をみると、10歳代から40歳代は減少傾向にある一方で、50歳代から60歳代は増加傾向にある（図6）。

若い世代の献血者が減少傾向にあるのは、少子高齢化の影響等が要因として考えられるが、長期的・安定的に血液を確保するためには、若年層に対する献血啓発を重点的に行うことにより献血への理解を深め、献血協力の時間を作っていただくことが重要である。

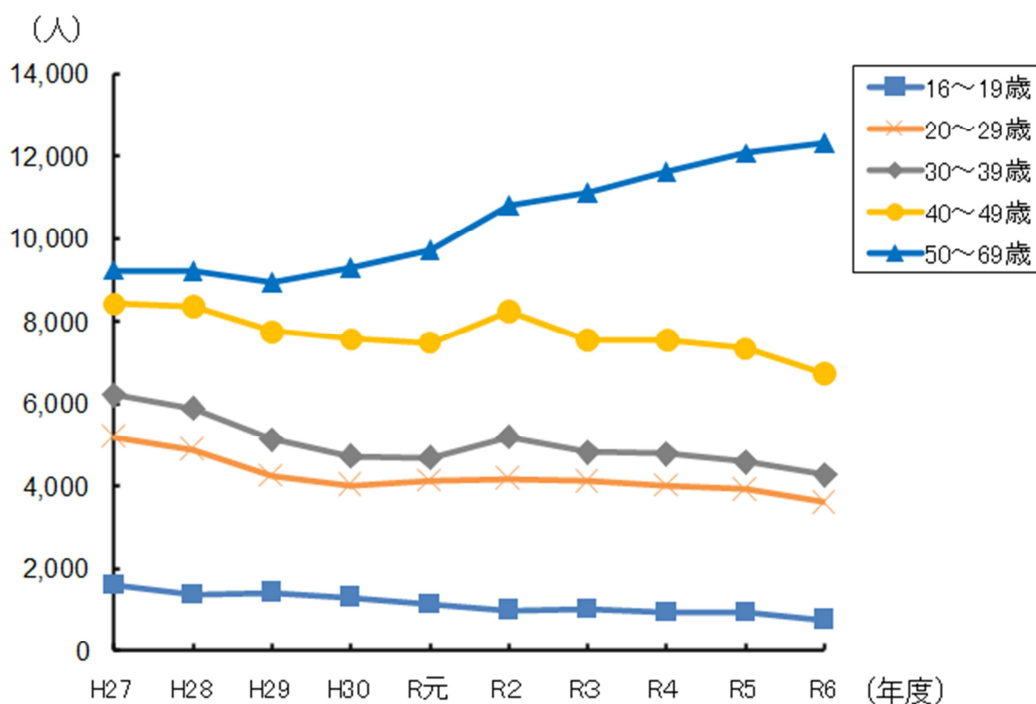


図6 年代別献血者数の推移

(4) 職業別献血状況

職業別献血者数は、表5のとおりであった。会社員が最も多く、次いでその他、公務員、学生（高校生を除く）、高校生の順となっている。

表5 職業別献血者数（単位：人）

	(単位:人)												小計
	公務員		会社員		学生				その他		計		
	男	女	男	女	高校生		その他		男	女	男	女	
200mL	0	15	3	53	6	51	0	25	0	57	9	201	210
400mL	3,399	900	6,513	2,282	93	37	638	452	2,422	2,200	13,065	5,871	18,936
血漿	773	280	2,258	841	7	1	141	103	1,150	1,001	4,329	2,226	6,555
血小板	253	1	1,076	39	12	0	62	3	500	63	1,903	106	2,009
合計	4,425	1,196	9,850	3,215	118	89	841	583	4,072	3,321	19,306	8,404	27,710
合計	5,621		13,065		207		1,424		7,393				27,710
割合	20.3%		47.1%		0.7%		5.1%		26.7%				

(5) 献血種類別・受入施設別献血状況

受入施設別の献血者数は、献血ルームが14,319人(51.7%)、献血バスが13,391人(48.3%)であった(表6)。

表6 献血種類別・受入施設別献血状況

	献血ルーム (ハートピアやまもも)			献血バス (保有3台)			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
200 mL(人)	9	201	210	0	0	0	9	201	210
400 mL(人)	3,718	1,827	5,545	9,347	4,044	13,391	13,065	5,871	18,936
血漿(人)	4,329	2,226	6,555	0	0	0	4,329	2,226	6,555
血小板(人)	1,903	106	2,009	0	0	0	1,903	106	2,009
合 計(人)	9,959	4,360	14,319	9,347	4,044	13,391	19,306	8,404	27,710
男 女 比	69.6%	30.4%	100%	69.8%	30.2%	100%	69.7%	30.3%	100%
施 設 比	35.9%	15.7%	51.7%	33.7%	14.6%	48.3%	-	-	-
延 日 数	357日(平均40.1人/日)			346日(平均38.7人/日)			703日(平均39.4人/日)		

(6) 献血ができなかった人数及び検査不合格血液の状況

献血申込者29,912人のうち、献血ができなかった者は2,202人(7.4%)であった。

また、申込者のうち975人(3.3%)が血液の比重不足により献血ができなかった。血液の比重不足により献血ができなかった者の男女比は、男性1.0%に対し女性が8.0%となっているが、これは男女の赤血球数の違いによる影響が大きいためである(表7)。

表7 献血ができなかった人数等の状況

	申込者数	献血ができなかった者						献血者数		
		比重不足		その他		計		人数	構成比(%)	
		人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)			
男(人)	200mL	15	0	0.0	6	40.0	6	40.0	9	60.0
	400mL	13,739	138	1.0	536	3.9	674	4.9	13,065	95.1
	血漿	4,462	42	0.9	91	2.0	133	3.0	4,329	97.0
	血小板	2,018	24	1.2	91	4.5	115	5.7	1,903	94.3
	計	20,234	204	1.0	724	3.6	928	4.6	19,306	95.4
女(人)	200mL	248	11	4.4	36	14.5	47	19.0	201	81.0
	400mL	6,876	622	9.0	383	5.6	1,005	14.6	5,871	85.4
	血漿	2,422	117	4.8	79	3.3	196	8.1	2,226	91.9
	血小板	132	21	15.9	5	3.8	26	19.7	106	80.3
	計	9,678	771	8.0	503	5.2	1,274	13.2	8,404	86.8
合計(人)	200mL	263	11	4.2	42	16.0	53	20.2	210	79.8
	400mL	20,615	760	3.7	919	4.5	1,679	8.1	18,936	91.9
	血漿	6,884	159	2.3	170	2.5	329	4.8	6,555	95.2
	血小板	2,150	45	2.1	96	4.5	141	6.6	2,009	93.4
	計	29,912	975	3.3	1,227	4.1	2,202	7.4	27,710	92.6

中四国ブロック全体の検査不合格血液の状況については、献血された血液425,069本のうち、約1.4%に当たる5,831本が検査不合格となり、輸血に使用できなかった。その主な理由は、肝機能の異常(ALT)であり、約57%を占めている(表8)。

表8 検査不合格血液の内訳(中四国ブロック全体の状況)

検査 不合格数 (本)	原因別製造向不適合数						
	梅毒	HBs 抗原	HBc 抗体	HCV 抗体	ALT	不規則抗体	その他
5,831	283	102	605	149	3,298	213	1,283
構成比(%)	4.9	1.7	10.4	2.6	56.6	3.7	22.0

(注1)上記内訳は日本赤十字社血液事業本部「令和6年度血液事業年度報(令和6年4月～令和7年3月累計)」掲載データを使用。

(注2)検査不合格の原因は、重複する場合がある。

2 供給状況

(1) 供給本数等

令和6年度に高知県赤十字血液センターから供給された血液製剤の本数を表9に示した。

表9 血液製剤純供給本数

製剤種類		本数	製剤種類(再掲)	本数	製剤種類(再掲)	本数				
全血製剤	全血製剤	2単位	0	照射全血製剤	2単位	0				
		1単位	0		1単位	0				
		小計	0		小計	0				
		単位換算	0		単位換算	0				
成分製剤	赤血球製剤	2単位	19,544	照射赤血球製剤	2単位	19,828				
		1単位	113		1単位	120				
		小計	19,657		小計	19,948				
		単位換算	39,201		単位換算	39,776				
	血漿製剤	FFP-LR480	1,768	(FFPは、新鮮凍結血漿の略称) (HLAIはヒト白血球抗原の略称)						
		FFP-LR240	1,966							
		FFP-LR120	0							
		小計	3,734							
		単位換算	11,004							
	血小板製剤	血小板製剤	20単位	0	照射血小板製剤	20単位	0	HLA血小板製剤	20単位	0
			15単位	0		15単位	0		15単位	0
			10単位	4,765		10単位	5,173		10単位	2
			5単位	0		5単位	1		5単位	0
2単位			0	2単位		0	2単位		0	
1単位			0	1単位		0	1単位		0	
小計			4,765	小計		5,174	小計		2	
単位換算			47,650	単位換算		51,730	単位換算		20	
実本数・合計		28,156								
単位換算・合計		97,855								

(注1) 「純供給本数」は、供給後に返品、返納された製剤を除いた数。

(注2) 「単位換算」は、各製剤の単位数を本数に換算した数。

(注3) 血漿製剤の単位換算はFFP-LR120を1単位、FFP-LR240を2単位、FFP-LR480を4単位とする。
(これらのデータは、日本赤十字社HPで公表の「全国血液センター供給本数速報(Ⅱ)」からの引用。)

(2) 年度別供給状況

令和6年度の血液製剤は実本数で28,156本、また200 mL換算で97,855本供給しており、前年度より減少した(表10、図7)。

表10 血液製剤供給量の推移

(上段:200 mL換算本数、下段:実本数)

	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
全血製剤	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
赤血球製剤	42,984 (21,944)	43,406 (21,997)	42,123 (21,387)	39,894 (20,214)	40,320 (20,418)	40,182 (20,270)	41,910 (21,085)	41,132 (20,667)	39,776 (19,948)	39,201 (19,657)
血漿製剤	18,320 (4,976)	20,254 (5,303)	15,269 (5,330)	13,940 (4,893)	14,321 (5,016)	13,308 (4,702)	13,017 (4,586)	13,010 (4,544)	12,227 (4,193)	11,004 (3,734)
血小板製剤	58,560 (5,856)	53,561 (5,358)	57,460 (5,746)	56,026 (5,634)	49,200 (4,920)	49,470 (4,947)	53,700 (5,370)	51,590 (5,159)	51,735 (5,174)	47,650 (4,765)
合計	119,864 (32,776)	117,221 (32,658)	114,852 (32,463)	109,860 (30,741)	103,841 (30,354)	102,960 (29,919)	108,627 (31,041)	105,732 (30,370)	103,738 (29,315)	97,855 (28,156)

(注1)換算本数は、400mL由来製剤=×2、2単位=×2、5単位=×5、10単位=×10、15単位=×15、20単位=×20により算出

(注2)令和6年度データは、日本赤十字社ホームページに公表の「全国血液センター供給本数速報(Ⅱ)令和6年4月~令和7年3月分累計」より算出

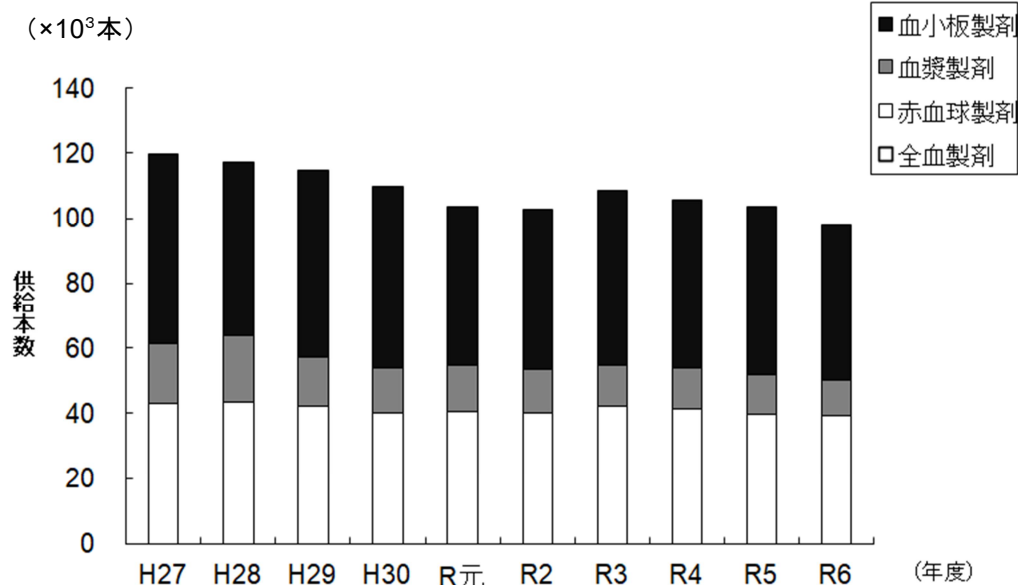


図7 血液製剤供給本数 (200 mL換算)の推移

IV 献血目標量

表 11 令和 7 年度市町村別献血目標量

保健所	市町村名	目標献血者数			令和 7 年度配車計画
		400mL (人)	200mL (人)	合計	移動献血車 (台数)
安芸	室戸市	145	0	145	3.5
	東洋町	25	0	25	0.5
	安芸市	258	0	258	6.0
	奈半利町	50	0	50	1.0
	田野町	50	0	50	1.0
	安田町	36	0	36	1.0
	北川村	34	0	34	1.0
	馬路村	0	0	0	0.0
	芸西村	76	0	76	2.0
小計	674	0	674	16.0	
中央東	南国市	1,070	0	1,070	24.5
	香南市	406	0	406	8.5
	香美市	423	0	423	10.5
	本山町	102	0	102	2.0
	大豊町	40	0	40	1.0
	土佐町	110	0	110	2.5
	大川村	20	0	20	0.5
	小計	2,171	0	2,171	49.5
高知	高知市	6,886	0	6,886	162.0
中央西	土佐市	667	0	667	14.5
	いの町	147	0	147	4.0
	佐川町	124	0	124	3.0
	越知町	56	0	56	1.5
	仁淀川町	92	0	92	2.5
	日高村	120	0	120	3.0
小計	1,206	0	1,206	28.5	
須崎	須崎市	434	0	434	10.0
	中土佐町	165	0	165	3.0
	梶原町	142	0	142	3.0
	津野町	80	0	80	2.0
	四万十町	215	0	215	4.5
小計	1,036	0	1,036	22.5	
幡多	四万十市	550	0	550	12.0
	宿毛市	435	0	435	10.0
	黒潮町	112	0	112	2.5
	大月町	55	0	55	1.0
	三原村	54	0	54	1.0
	土佐清水市	165	0	165	3.0
小計	1,371	0	1,371	29.5	
移動献血車合計		13,344	0	13,344	308.0
献血ルーム		5,660	264	5,924	
合計		19,004	264	19,268	

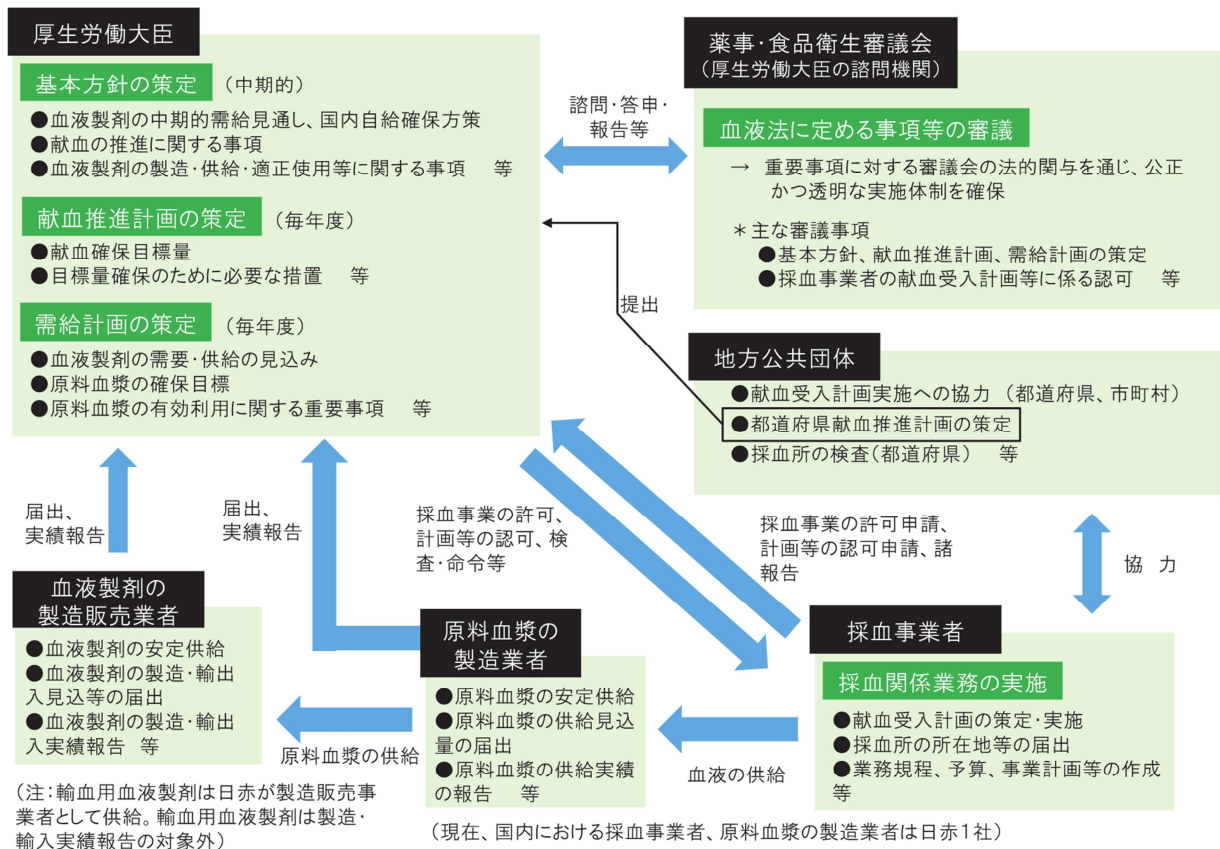
V 献血推進組織

令和6年度に献血にご協力いただいた団体数は318であった。
その内訳は、市町村献血組織5(表12)、学域献血23、ライオンズクラブ28、
献血推進・協力団体・事業所・職域協力組織267となっている。

表12 市町村献血組織

番号	組 織 名	結 成 日
1	南国市献血推進会	S41.6.10
2	高知市献血推進会	S43.8.30
3	日高村献血推進会	S44.2.23
4	須崎市献血推進協議会	S45.11.8
5	室戸市献血推進協議会	S53.5.1

VI 血液事業の役割分担



厚生労働省医薬局血液対策課「令和6年度 血液事業報告」より

図8 献血推進の実施体制

Ⅶ 令和6年度高知県献血推進計画

令和6年度高知県献血推進計画

令和6年3月29日

高 知 県

令和 6 年度高知県献血推進計画

本計画は、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律（昭和 31 年法律第 160 号）第 10 条第 5 項の規定に基づき定める令和 6 年度の本県の献血の推進に関する計画である。

1 令和 6 年度に献血により確保すべき血液の目標量

令和 6 年度は、県内の医療機関への近年の輸血用血液製剤供給の動向や、血漿分画製剤を国内自給するために必要な原料血漿として毎年度国から本県に割り当てられた量（令和 6 年度割当量：8,774ℓ）などに基づき、高知県赤十字血液センターと協議のうえ、献血により確保すべき血液の目標量及び献血者の目標者数を次のとおりとする。

令和 6 年度 献血目標量 12,741.8ℓ
 献血目標者数 28,461人

採血区分		献血者数（人）			血液量（L）
		移動採血車	献血ルーム	合計	
全血献血	400mL	14,205	5,410	19,615	7,846
	200mL	0	264	264	52.8
		14,205	5,674	19,879	7,898.8
成分献血		0	8,582	8,582	4,843
合計		14,205	14,256	28,461	12,741.8

2 目標量を確保するために必要な措置に関する事項

(1) 関係者の役割

- ① 県は、献血に関する効率的な献血推進計画を策定し、それに基づき、県民の理解を深め、広報や献血推進組織の育成等の献血を推進していくために必要な施策を実施するとともに、高知県赤十字血液センターの献血受け入れが円滑に実施されるよう、必要な措置を講ずる。

また、各福祉保健所においては管内市町村と連携を図り、地域住民への啓発を積極的に行うなど献血者の確保に努める。

- ② 市町村は、県と協力して、より多くの住民に献血へ協力していただくため、地域の実情に応じた啓発を行うことで、献血への理解を深めるとともに、高知県赤十字血液センターの献血受け入れが円滑に実施されるよう、献血会場の確保等の配慮を行う。

- ③ 高知県赤十字血液センターは、県及び市町村等が行う献血推進の取り組みに積極的に協力し、献血者に必要な情報を提供すること等により献血への一層の理解と協力を呼びかける。

また、献血者に安心、安らぎを与える環境作りや、地域の実情に応じた移動採血車による計画的採血及び献血受入時間帯の設定等を行い、県民が継続して献血に協力できるための受け入れ体制を整備する。

(2) 献血に関する普及啓発活動の実施

① 献血推進キャンペーン月間運動の実施

県は、市町村及び高知県赤十字血液センター等と連携し、献血者の安定的な確保並びに安全な血液の確保を図るため、次のとおり献血推進キャンペーンや月間運動を実施する。

また、ボランティア組織等との連携を強化し、各種街頭キャンペーンの実施に協力する。

国・日本赤十字社・県が主催する主な月間行事等	
7月	「愛の血液助け合い運動」月間
1月～2月	「はたちの献血」キャンペーン

② 広報活動

愛の血液助け合い運動月間及びはたちの献血キャンペーン期間を中心に、各広報媒体（ポスター・チラシ・新聞・ラジオ・テレビ・SNS等）を効果的に活用し、献血の重要性や必要性を広く県民に呼びかけ、献血へご協力をいただけるよう、広報・普及活動を積極的に実施する。

高知県赤十字血液センターは、県、市町村、製造販売業者等の協力を得て、普及啓発資材等を活用し、近年需要が増大している血漿分画製剤について、献血から得られた血液を原料とすることや、多くの疾患の治療に欠かすことができないことなどを周知するとともに、安定供給が確保されるよう、成分献血への協力を呼びかける。

③ 献血推進組織等の育成

広く県民に献血の重要性の理解と協力をいただくためには、組織的な普及啓発活動の展開が欠かせない。

このため、県は、地域に密着した啓発活動の推進に向け、委嘱している献血推進員への献血の普及に関する知識・意識の向上に努めるとともに、各市町村に設置されている献血推進協議会や献血推進会の活動を支援する。

また、ライオンズクラブ、高知県学生献血クロス倶楽部、赤十字奉仕団などのボランティア組織や献血協力事業所等との連携を強化し、その献血推進活動を支援する。献血協力事業所等に対しては、その社会貢献活動の一つとして献血の推進を促し、また地域の実情に即した方法で、特に 20 代・30 代の労働者の献血促進について協力を求める。

④ 献血推進協議会の活用

県は、県民に献血や献血により得られた血液を原料とした輸血用血液製剤及び血漿分画製剤（以下「血液製剤」という。）への理解と協力を求め、血液事業の適正な運営を確保するため、高知県献血推進協議会を開催するものとする。

本協議会を活用することにより、高知県赤十字血液センター及び血液事業に関わる医療関係者・教育機関・報道機関・ボランティア組織等と連携して、高知県献血推進計画の策定を始めとした、献血に関する事業の推進等について検討する。

⑤ 献血功労者表彰式の開催

県は、献血運動の推進に積極的に協力し、模範となる実績を示した団体又は個人に対し、知事感謝状の贈呈を行い、献血運動の推進に資する。

⑥ 若年層等に対する献血への理解を深めるための普及啓発

県及び高知県赤十字血液センターは、献血者が減少傾向にあることや、少子高齢化の加速により献血可能人口が減少していくことから、特に将来を担う若年層等の献血への理解の促進を図る。

高校生や学生等への若年層に対しては、LINE による献血への協力依頼、また X（旧：Twitter）及び Facebook による献血イベント・キャンペーンのお知らせや学生イベントの活動報告等、SNS 等を主体に様々な広報手段を用いて、気軽に目に触れる機会を増やすとともに、高知県学生献血クロス倶楽部等のボランティア組織と連携し、若年層を対象としたキャンペーンを実施する等、同世代からの働きかけを通じ、血液及び献血への正しい知識の普及啓発に努める。

特に、献血率の減少傾向が続いている 20 代・30 代の方へは、Web による献血の予約も可能となる献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の活用を促すなど、長期にわたり複数回献血に協力してもらえような普及啓発、環境整備に努める。

また、高知県赤十字血液センターは、若年層や企業等に対して献血の意義や血液製剤について分かりやすく説明する「献血セミナー」や血液センターでの体験学習等を積極的に行い、正しい知識の普及啓発と協力の確保を図るとともに、特に献血可能年齢未満もしくは献血未経験者である学生等の潜在的な献血者に対しては、「献血セミナー」の機会等を活用し、簡便な献血予約や献血の検査記録閲覧、献血カード機能の実装等による利便性を提供する「ラブラッドアプリ」の利用を啓発する。その啓発にあたっては、県、市町村、献血推進活動を行うボランティア組織等の協力を得る。

県及び市町村は、若年層や企業等の献血への関心を高めるため、高知県赤十字血液センターと連携し、血液センターの実施する「献血セミナー」や体験学習を、積極的に活用してもらえるよう学校等に情報提供を行うとともに、献血推進活動を行うボランティア組織との有機的な連携を確保する。

⑦ 複数回献血の推進

県及び高知県赤十字血液センターは、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」を周知し、同サービスへの登録を促進するとともに、複数回献血の重要性や安全性を啓発する。特に、若年層に対しては、「⑥ 若年層等に対する献血への理解を深めるための普及啓発」等の取り組みを通じて、複数回献血の推進を図る。

(3) 献血の推進に際し、配慮すべき事項

① 献血者が安心して献血できる環境の整備

高知県赤十字血液センターは、献血者の個人情報の保護や、採血の業務の管理を適正に行うことによる採血時の安全性の確保、採血時の事故に備える等、献血者が安心して献血できる環境の整備を行う。採血時には事前説明を十分に行い、丁寧な処遇に留意することで、初回献血者が抱いている不安等を払拭することに努めるとともに、献血が出来なかった者に対しては、その理由について分かりやすく説明するなど、その後の献血推進への協力につながるよう配慮する。

また、新興・再興感染症のまん延においても献血者が安心して献血できるよう感染防止対策を講ずるとともに、献血者に対し、対策についての適切な情報発信を行う。

県は、こうした取り組みを支援するため、献血会場として公共施設の提供、献血バスの駐車場所の確保などを関係者に対して積極的に呼びかけ、高知県赤十字血液センターによる献血の受け入れに協力する。

② 血液製剤の安全性の向上に関する啓発

県及び市町村、高知県赤十字血液センターは、HIV 等の感染症の検査を目的とした献血を防止するための周知を積極的に行う。

3 その他献血の推進に関する重要事項

(1) 献血推進施策の進捗状況等に関する確認・評価

県は、血液事業の担当者が協議する会議を開催し、献血推進のための施策の進捗状況について確認及び評価を行うとともに、高知県赤十字血液センターによる献血の受け入れの実績についての情報を把握し、必要に応じ、献血推進のための施策の見直しを行うことに努める。

そのため、県は次のとおり会議を開催する。

- ・市町村献血担当者会議（５～６月）

（２）血液製剤の適正使用の推進

県は、高知県赤十字血液センターと連携し、医療関係者に対して、「輸血療法の実施に関する指針」及び「血液製剤の使用指針」の周知徹底を図るとともに、高知県合同輸血療法委員会において、県内医療機関の血液製剤の使用状況を分析・評価し、情報を共有することにより、血液製剤の適正使用を推進する。

（３）血液製剤の在庫水準の常時把握と不足時の適切な対応

県は、血液製剤（特に有効期間の短い血小板製剤と赤血球製剤）の在庫水準を常時把握し、在庫が不足する場合又は不足が予測される場合には、早急に必要な対策を講ずる。

（４）災害時などにおける血液製剤の確保

県は、高知県赤十字血液センターと連携して、血液製剤が円滑に現場に供給されるよう高知県災害時医療救護計画に基づき、災害時における血液製剤の確保に必要な対策を講ずる。

高知県赤十字血液センターは、採血事業が医療体制の維持に不可欠なものであることを踏まえ、新興・再興感染症のまん延下の状況であっても、医療需要に応じた血液製剤の安定供給を図るため、県、市町村の協力を得て、安心・安全な献血環境の保持と献血者への感染防止を図るとともに、様々な広報手段を用いて献血への協力を呼びかける

資 料

I わが国の血液事業のあゆみ

1 血液供給事業のはじまり

わが国で保存血液の供給事業がはじまったのは、昭和 26 年からである。

昭和 31 年 6 月には採血及び供血あっせん業取締法が制定された。当時は売血の全盛時代で、献血の呼びかけも売血のまえには全く無力であった。

そのため、供血者自身の貧血問題や、「黄色い血」といわれる輸血用血液の品質低下により、受血者の血清肝炎の高率発生など、大きな人道的問題をもたらす結果となった。

2 献血による血液の安定供給をめざして

このような事態に対処して、昭和 39 年 8 月 21 日政府は血液事業正常化のため次のような閣議決定を行った。

献血の推進について

昭和 39 年 8 月 21 日
閣 議 決 定

政府は、血液事業の現状にかんがみ、可及的速やかに保存血液を献血により確保する体制を確立するため、国及び地方公共団体による献血思想の普及と献血の組織化を図るとともに、日本赤十字社または地方公共団体による献血受入れ体制の整備を推進するものとする。

この閣議決定を契機として、国、地方自治体、日本赤十字社、民間のボランティア団体などによる広範な献血推進運動が展開された結果、現在では、血液製剤のうち、輸血用血液（全血製剤及び血液成分製剤）は、すべて献血によって確保されている。

献血に係る主な推進運動

* 「愛の血液助け合い運動」 ----- 昭和 40 年から開始

* 「はたちの献血」キャンペーン ----- 昭和 50 年から開始

（当初は、日本民間放送連盟主催によるラジオキャンペーン）

また、昭和 57 年度からは、それまでの献血手帳の預血的運用を改め、手帳の供給欄を削除し、献血手帳の有無にかかわらず、誰でも、いつでも血液の供給が受けられる体制となった。

3 すべての血液製剤の国内自給をめざして

昭和 50 年代に入り、医学の進歩に伴って輸血の形態が「全血輸血」から「成分輸血」へと大きく変わり、また、血漿中にあるアルブミンや免疫グロブリンなど、特定のタンパク質を物理化学的に分離して取り出してつくられる血漿分画製剤の需要が急速に増大した。

しかしこの血漿分画製剤は、その製品・原料ともに、大部分を海外からの輸入に依存していたため、その国内自給が大きな課題となった。

このため、厚生省（現.厚生労働省。以下同じ。）では、昭和 59 年から「血液事業検討委員会」を設けて対応を検討した結果、同委員会が昭和 60 年 8 月に取りまとめた中間報告に基づき、昭和 61 年 4 月 1 日から新採血基準を導入し、従来からの 200mL 献血に加えて、新しく 400mL 献血、成分献血が開始された。

血液事業検討委員会・中間報告（昭和 60 年 8 月 27 日）（要旨）

- 1 血漿分画製剤を含むすべての血液製剤を国内献血で確保すること。
- 2 血液製剤に関する需給目標を設定すること。
- 3 血液製剤の使用適正化を推進すること。
- 4 輸血の安全性、血液の有効活用の観点から献血に 400mL 採血、成分採血を導入普及すること。
- 5 血漿分画製剤の確保のため民間企業の製造能力を一時活用すること。

更に厚生省では、昭和 62 年 9 月に「新血液事業推進検討委員会」を設置し、献血から血液製剤の使用に至るまでの各段階における問題点などについて検討を行った結果、「すべての血液製剤の献血による国内自給を目標とした第 1 次報告」が平成元年 9 月に、「採血基準の見直しなどに関する第 2 次報告」が平成 2 年 12 月に取りまとめられた。

新血液事業推進検討委員会・第 1 次報告（平成元年 9 月 5 日）（要旨）

- 1 血漿分画製剤の国内自給達成のために強力な取組みが必要であるが、国内自給の第一目標は、血液凝固因子製剤におくべきである。
- 2 献血血液が有効かつ適正に使用されるよう使用適正化を強力に推進する。
- 3 効率的な事業運営と民間活力の利用が必要である。
- 4 血液製剤の製造、供給、使用の各段階における不当な利益を排除する。
- 5 成分献血、400mL 献血の比重をたかめるため、国民の理解と参加を求めめるための斬新な対策が必要である。

新血液事業推進検討委員会・第2次報告（平成2年12月14日）（要旨）

- 1 血漿成分採血の採血漿量（現行では一律400mL）を献血者の体重を目安とし300mLから600mLまでとする。
- 2 輸血用血液製剤の供給については、①採血・供給体制の広域化、②供給サービスの改善、③医療機関との連携の強化といった観点から日赤の供給体制の改善を図る。
- 3 血液製剤の使用適正化については、ガイドライン作成後の状況を踏まえ引き続き検討を行う。

これらの報告に基づき、まず、血漿分画製剤を含むすべての血液製剤を献血により確保するという第一の目的の達成に向けて血液事業の推進が図られた結果、平成6年には、血液凝固因子製剤に関しては、一部の特殊な製剤を除いて国内献血で自給できるようになった。

4 新たな血液事業の展開に向けて

また、平成9年12月には、今後の血液事業の新たな展開に向けてのあり方を幅広く検討することを目的として、平成8年10月に厚生省が設置した「血液行政の在り方に関する懇談会」の報告書が出された。

その中では、血液製剤の特性を踏まえて、すべての血液製剤の国内自給の推進を始めとする各種施策の展開が要請されるとともに、国、地方公共団体、血液事業者、医療機関等の役割と責務などに関する法制度の整備が提言された。

血液行政の在り方に関する懇談会報告書（平成9年12月12日）

〔 国内自給の促進、安全性確保、地方公共
団体の役割、法制度の整備に関する要旨 〕

- 1 国内自給の推進
 - ・ 血液製剤は人体の組織の一部である血液を原料とすることから、倫理的な見地から、できる限り自国民の血液を用いた血液製剤を製造し、使用する体制を築いていくべきである。
- 2 安全性確保
 - ・ 血液製剤は絶えず危険性をはらんでいることから、日本赤十字社及び民間製造業者等は、献血時の問診、各種ウイルスの検査、製造工程におけるウイルス不活化・除去等を含め、可能な限りの安全対策を講ずる等、安全性の確保に関し不断の努力が必要である。

3 地方公共団体の役割

- ・ 地域の実情に応じた献血の推進計画を策定すべきである。
- ・ その計画を円滑に実施するために地域住民の理解と協力を得るよう努めるとともに、献血が円滑に行われるように献血場所の提供等環境の整備を行うべきである。
- ・ 地域での医療機関における適正使用を推進すべきである。

4 法制度の整備

- ・ 血液事業における国、地方公共団体、日本赤十字社、民間製造業者、医療機関等の役割と責務を法的に明確にすることが必要である。
- ・ 時代の要請にこたえる新たな法制度の整備が必要である。

その後、国においてはこの提言を受け、平成10年3月から「中央薬事審議会（現・薬事・食品衛生審議会）企画・制度改正特別部会」において審議が行われ、平成12年12月に報告書が提出された。

中央薬事審議会企画・制度改正特別部会報告書（要旨）

（平成12年12月15日）

- 1 血液事業の基本理念として、以下の四点に基づく運営を確保する。
 - ・ 血液製剤に係る安全性の向上
 - ・ 献血による血液製剤の国内自給
 - ・ 血液製剤の適正使用
 - ・ 公正かつ透明な実施体制の確保
- 2 新たな血液事業等のあり方について、以下のとおり提言する。
 - ・ 献血による血液製剤の国内自給を確立するため、血液製剤の中長期的な需給見通し等を内容とする「基本方針」及び毎年度「献血確保目標量」を策定し、献血血液の計画的な確保を図る。
 - ・ 血液製剤の適正使用の推進を図る。
 - ・ 原料血漿の配分に係る国の役割の明確化、透明性の向上を図る。
 - ・ 血液製剤に係る安全監視体制の構築を図る。
 - ・ 血液製剤に係る健康被害の救済について、早急に検討を開始する。

国においてはこの報告書をもとに、採血及び供血あっせん業取締法の見直しを行い法律名を「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」に改め、平成15年7月に施行された。この法律により血液製剤について、国内自給が確保されることを目的とし、安定供給を確保し、一層の安全性向上を図るとともに適正な使用を推進することとなる。

II 本県の血液事業

1 沿革

昭和39年	12月	* 日本赤十字社高知県支部は移動採血車「のぞみ号」を540万円で購入、国費250万円、県費290万円を補助
昭和40年	1月	* 高知市新本町2丁目41番地（高知赤十字病院内）に高知県赤十字血液センターが開設され、同時に移動採血車が採血所の許可を受けた。
	2月	* 献血思想の普及と献血者の組織化を図るため高知県献血推進協議会が設立され、同時に高知県献血推進協議会規程が施行された。
	5月	* 移動採血車「のぞみ号」による採血業務を開始
昭和41年	4月	* 安芸市献血推進会が結成された。（以後、昭和53年5月までに県内市町村全てに推進会が結成された。）
	9月	* 高知市新本町2丁目41番地（高知赤十字病院内）に、プレハブ造りの高知県赤十字血液センターが建設され採血業の許可を受けた。
昭和42年	1月	* 日本生命献血協力が結成された。（以後、職場献血協力組織が結成されてきた。）
	10月	* 日本青年会議所から献血運搬車「JC号」が寄贈された。
昭和43年	3月	* 高知市西弘小路4番地1（所在地：高知市丸ノ内1丁目7番37号）に日本赤十字社高知県支部及び高知県赤十字血液センターが総工費3,533万円で竣工（支部1,543万7,126円、赤十字血液センター1,989万2,874円）し、5月1日から業務を開始した。 * 血液センターに対して日本赤十字社から1,440万円（お年玉）、県費300万円、市町村から250万円が補助された。
	4月	* 高知県赤十字血液センターが採血業の許可を受けた。
	5月	* 高知県赤十字血液センター事業費補助金として、ヘパリン血の採血事業に県費30万円を補助（以降昭和49年度まで継続）
	9月	* 県外から預血による血液がなくなり、100%献血による血液でまかなうようになった。
	11月	* 高知県西部（幡多地区）の保存血液の備蓄所を、合資会社木戸竹葉堂薬局に置くことになり委託契約した。
	12月	* 日本赤十字社高知県支部は移動採血車を430万円で購入。日本船舶振興会から320万円、県費86万円を補助

昭和44年	8月	* 香美郡献血推進連合会が発足
	9月	* 第1回高知県献血推進県民大会を開催
	10月	* 保存血液の配給が従来の民間委託方式から、高知県赤十字血液センターの直配となった。 * 高知県赤十字血液センターでは、献血運搬車1台を購入 * 高知県鷹城ライオンズクラブから献血運搬車「Y o j Y o号」の寄贈を受けた。
	12月	* R h (-) の血液型を持つ方の相互援助組織「ヤイロ会」が結成された。
昭和45年	9月	* 高知県赤十字血液センターの施設整備費（事務室、車庫、物置等の増築工事）に県費100万円を補助
	10月	* 高知県の定期の血液事業広報紙「高知献血だより」の第1号を発行（以後第6号まで発行） * 日本赤十字社から発行される献血手帳の様式が変更され、簡素化された。 * 財）日本相撲協会・横綱大鵬から献血運搬車「大鵬号」が寄贈された。 * ヤイロ会事業に県費10万円を補助
昭和46年	8月	* 献血推進事業費補助金（輸血用血液代金自己負担金）の交付要綱が制定され4月1日から適用された。
	11月	* 高知県で初めて小学校々区（高知市一ツ橋小学校区献血友の会）に献血組織が結成された。
昭和47年	1月	* 日本赤十字社から供給される医療用血液について、オーストラリア抗原の検査を実施することになった。
	3月	* （財）日本宝くじ協会から愛の採血車「宝くじ号」の寄贈を受けた。
	4月	* 日本赤十字社高知県支部の施設整備費（超音波清浄装置、pHメーターの購入）に県費27万6千円を補助
	6月	* 昭和47年度血液関係ブロック会議（中国、四国地区）を土佐寮で開催
	11月	* 献血者10万人達成
	12月	* 高知県西部（幡多地区）の保存血液の備蓄所を合資会社木戸竹葉堂薬局から中村市右山1,973高知県立西南病院に移管
昭和49年	3月	* 高知県赤十字血液センターに対し、機能の充実と業務の省力化のため万能冷却遠心分離機の購入に県費37万5千円を補助
	4月	* 血液代金の自己負担金支給事業（血液代金の無料化）の開始
	10月～1月	* 県下7ブロックにおいて市町村血液推進会長並びに事務局担当者の合同研修会を開催
	12月	* 移動採血車「のぞみ号」を購入 県費360万円を補助

昭和50年	1月	* 全国民放連主催による「はたちの献血」ラジオキャンペーンが60日間にわたって開催された。(以後、毎年開催される。)
	3月	* 高知県赤十字血液センターに対し、施設(恒温槽)整備費17万5千円の県費を補助
	4月	* 佐川保健所(現、中央西保健所)管内に献血推進協議会が発足
	9月	* 本県の献血事業10周年を記念して、血液功労者に対し、知事から表彰状が贈呈された。
昭和51年	3月	* 高知県赤十字血液センターに対し、施設(精製水集水機)整備費県費32万5千円を補助
	4月	* 血液成分製剤の製造供給を開始
	6月	* 献血者20万人達成
	12月	* トヨタ・カローラ販売(株)から献血運搬車「愛のカローラ号」が寄贈された。
昭和52年	8月	* 宮地産婦人科から献血運搬車が寄贈された。
昭和53年	6月	* 県下5ブロック献血担当者連絡協議会を開催(以後、毎年継続)
昭和54年	3月	* 高知県赤十字血液センターに対し、心臓手術用血液の採血事業費に県費20万円を補助(以後、昭和59年まで継続)
		* 献血者30万人達成
	6月	* 各献血推進会の実態調査を実施
	9月	* (財)日本宝くじ協会から愛の採血車「宝くじ号」の寄贈を受けた。
昭和56年	4月	* 献血登録制度発足
	5月	* 中四国血液関係ブロック会議を高知会館で開催
	7月	* 献血者40万人達成
昭和57年	4月	* 献血手帳の様式改正を行い、「供給記録欄」を削除した。これにより献血手帳の有無にかかわらず、誰でも、いつでも血液の供給が受けられる真の献血制度となった。 また、献血者サービスの向上をはかるため、献血者全員に血液中のコレステロールなど6項目についての生化学検査結果を通知することとなった。
	9月	* 日本赤十字社高知県支部は移動採血車「のぞみ2号」を購入。県費700万円を補助
昭和58年	8月	* 献血者50万人達成
昭和59年	11月	* 高校生の献血に対する意識調査を採血場所において実施
昭和60年	5月	* 献血者60万人達成

昭和61年	3月	<ul style="list-style-type: none"> * 高知市棧橋通6丁目7番44号に高知県赤十字血液センターが総事業費75,800万円（自転車振興会17,193万円、支部3,000万円、市町村8,040万円、県25,260万円補助）で竣工。県は、昭和61年から平成17年まで、元利償還金の補助をする。 * 血液代金の自己負担支給事業の廃止
	4月	<ul style="list-style-type: none"> * 400mL献血の開始 * 新しい血液センターで業務を開始。（旧血液センターは丸ノ内出張所として業務を継続）
	6月	<ul style="list-style-type: none"> * 成分献血の開始
	7月	<ul style="list-style-type: none"> * 皇太子殿下（現、天皇陛下）をお迎えして第22回血液運動推進全国大会を高知県民文化ホールで開催 * 大会を記念して、高知黒潮ライオンズクラブ、高知黒潮ライオネスクラブ、高知市内ロータリークラブから献血運搬車3台、献血推進車1台が寄贈された。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> * 400mL献血者及び成分献血者に対して、従来からの生化学検査6項目に加え、新たに血球検査8項目を通知することになった。 全ての献血血液に対して、エイズ、ATL抗体検査の実施
	11月	<ul style="list-style-type: none"> * 高知トヨペット販売（株）から献血運搬車が寄贈された。
昭和62年	1月	<ul style="list-style-type: none"> * （財）日本宝くじ協会から愛の採血車「宝くじ2号」が寄贈された。 * 高知県献血者登録制度推進委員会が発足 * 献血者70万人達成
	2月	<ul style="list-style-type: none"> * 医療関係者に対する血液製剤使用適正化の説明会を開催
	10月	<ul style="list-style-type: none"> * 9月県議会において「献血の推進に関する決議」がなされた。
昭和63年	1月	<ul style="list-style-type: none"> * 国際ソロプチミストアメリカ・日本西リジョン高知クラブから献血運搬車が寄贈された。
	3月	<ul style="list-style-type: none"> * 高知鷹城ライオンズクラブからフリーザー1台、テント3張が寄贈された。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血推進員制度が発足。163名に委嘱（地域100，職域63）
	9月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血者80万人達成
平成元年	6月	<ul style="list-style-type: none"> * 高知黒潮ライオンズクラブから「献血推進・啓発用広告塔」2基が寄贈された。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> * C型肝炎ウイルス検査開始（HCV抗体検査第1世代抗体）

平成2年	4月	* 高知県赤十字血液センター丸ノ内出張所を成分献血ができるように整備
	6月	* 献血者 90 万人達成
	7月	* 成分兼用車による成分献血開始
	12月	* 成分専用車による採血開始（一部使用）
平成3年	5月	* 高知黒潮ライオンズクラブから創立 30 周年を記念して送迎車 1 台が寄贈された。 * 献血者紹介制度が発足
	12月	* 献血推進員委嘱 256 名となる。
平成4年	2月	* 献血者 100 万人達成 * 血液製剤使用適正化普及委員会の設置 * C型肝炎ウイルス検査（第2世代抗体）開始
	6月	* C型肝炎陽性者に対する個人通知開始（H4. 6. 1 採血分から）
平成5年	12月	* 献血者 110 万人達成
平成6年	3月	* HIV-Ⅱの検査開始（H6. 3. 1 採血分から）
	4月	* 血液低比重者対策の実施（H6. 4月～H7. 3月）
	6月	* 献血シンボルマークの決定
	7月	* 高知桂ライオンズクラブから献血運搬車 1 台が寄贈された。
平成7年	4月	* 献血者に対する生化学検査の項目及び測定単位が変更される（H7. 4. 1 採血分から） * 日本赤十字社表彰制度の改正（H7. 4. 1 から）
	6月	* 輸血用血液製剤の安全性に関する報告書が血液問題検討会より提出された。
	7月	* 問診票の改正
	8月	* 献血啓発用ビデオ「献血のこと知っていますか？～だれかのために君の思いを～」を作成
平成8年	1月	* 献血者 120 万人達成
	7月	* 献血推進イベント「愛の花咲くフェスティバル」の開催 * 宮地産婦人科医院長から献血運搬車 1 台が寄贈された。
平成9年	2月	* 「あなたの愛！誰かのために」テレビ放送
	4月	* 株式会社フジから献血運搬車 1 台が寄贈された。
	12月	* 高知東ライオンズクラブから献血運搬車 1 台が寄贈された。 * 血液行政の在り方に関する懇談会報告書が提出される。

平成10年	1月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血ルームの愛称を公募により「ハートピア やまもも」に決定 * 旧丸ノ内出張所業務を停止
	2月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血ルーム“ハートピア やまもも”が高知市本町の朝日生命高知本町ビル2階に開設
	6月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血者130万人達成
平成11年	4月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血年齢が64歳から69歳に引き上げられた。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> * 日本赤十字社血漿分画センター（千歳）及び東京都南赤十字血液センターで核酸増幅検査（NAT）を開始 * 本県からも、全ての血小板成分献血を千歳に送り当該検査を実施 * HTLV-I抗体検査陽性献血者への結果通知開始
平成12年	3月	<ul style="list-style-type: none"> * 「高知県献血推進計画」策定
	5月	<ul style="list-style-type: none"> * 日本赤十字社血液管理センター（京都府福知山市）で核酸増幅検査（NAT）を開始 * 本県からも、全ての献血を福知山に送り当該検査を実施
	10月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血者140万人達成
	12月	<ul style="list-style-type: none"> * 「新たな血液事業のあり方について」最終報告書が中央薬事審議会（現・薬事・食品衛生審議会）企画・制度改正特別部会より提出された。
平成13年	3月	<ul style="list-style-type: none"> * 問診票の改正
	12月	<ul style="list-style-type: none"> * （財）日本宝くじ協会から愛の採血車「宝くじ1号」が寄贈された。
平成14年	7月	<ul style="list-style-type: none"> * 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が公布。
平成15年	2月	<ul style="list-style-type: none"> * 平成14年用寄附金付お年玉付郵便葉書等に付加された寄附金の配分金により、移動採血車が整備された。 * （株）エヌ・ティ・ティファシリティーズから献血運搬車が寄贈された。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血者150万人達成
	7月	<ul style="list-style-type: none"> * 「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が施行。
平成16年	3月	<ul style="list-style-type: none"> * 高知桜ライオンズクラブから献血運搬車が寄贈された。
	6月	<ul style="list-style-type: none"> * 血液事業新統一システム運用開始
	10月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血時の「献血者本人確認」開始
平成17年	4月	<ul style="list-style-type: none"> * 採血時の欧州滞在歴に関する問診の強化開始 * 愛媛県赤十字血液センターに検査業務委託開始（安全性向上に向けた検査業務の集約化）
	8月	<ul style="list-style-type: none"> * 高知県赤十字血液センター献血推進本部設置
	9月	<ul style="list-style-type: none"> * 献血者160万人達成

平成18年	1月	* (財)日本宝くじ協会から採血車「宝くじ2号」が寄贈された。
	2月	* 宮地産婦人科医院長から献血運搬車1台が寄贈された。
	10月	* 依光内科クリニック院長から献血運搬車1台と液晶テレビ32型1台及び13型10台が寄贈された。
		* 献血カードの導入
		* 血小板採血初流血除去開始
		* 献血者健康被害救済制度開始
平成19年	1月	* 保存前白血球除去開始
	2月	* 全血採血初流血除去開始
	3月	* 岡山県赤十字血液センターへ検査業務集約
	7月	* 過去に陽性履歴があるスクリーニング検査陰性献血者の献血血液に係る対応を変更
	11月	* 血小板製剤の有効期限を4日間に変更。
		* 高知東ライオンズクラブからテント2張り寄贈
平成20年	2月	* 依光内科クリニック院長から献血推進費が寄付された。
		* 感染症関連検査がC L E I A法に変更
	7月	* H B s 抗原陽性者の個別N A T検査開始
	8月	* 医療用医薬品の新バーコード表示の開始
平成21年	3月	* 依光内科クリニック院長から献血推進車1台が寄贈された。
		* 生化学検査A S Tを廃止
		* 糖尿病関連G A (グリコアルブミン) の検査開始
	4月	* 献血ルームの受付時間拡大
	10月	* 依光内科クリニック院長から献血推進車の寄贈
平成22年	1月	* 英国渡航歴に関する規制の緩和
	10月	* 黒潮・よさこいライオンズクラブ共同で血液運搬車の寄贈
	12月	* 黒潮ライオンズクラブから献血推進車の寄贈
		* 献血者希望者全員に血球検査(8項目)、生化学検査(7項目)の通知開始
		* 依光内科クリニック院長から血液運搬車の寄贈
平成23年	3月	* (財)日本宝くじ協会から採血車「宝くじ1号」の寄贈
		* 献血者180万人達成

平成 24 年	4 月	* 採血基準の一部改正 * 血液センターの運営体制が、各都道府県の血液センター単位の運営から、より広域的なブロックを単位とする運営体制（広域事業運営体制）に変更。中四国ブロック血液センターによる運営開始。 * 四国の献血で得られた血液は香川にて製造、岡山にて検査される。
	10 月	* シャーガス病に係る新たな安全対策開始
	11 月	* 献血ルーム“ハートピア やまもも”での献血者が 20 万人達成 * 検査業務場所が岡山から広島へ変更 * 国際ソロプチミスト高知から血液運搬車の寄贈
平成 25 年	4 月	* 移動採血車で献血受入れについては、400mL 献血者のみに変更した。
	12 月	* 依光内科クリニック院長から乗用車の寄贈
平成 26 年	6 月	* 血液事業情報システム稼働開始
	3 月	* 中四国ブロック血液センター 香川製造所廃止
平成 27 年	4 月	* 血液センター移転にかかる地元への説明会実施 * 中四国ブロック血液センター（広島）で製造開始
	9 月	* 血液センター移転にかかる地元への説明会実施
平成 28 年	11 月	* 血液センター移転先での地鎮祭実施
平成 29 年	5 月	* 高知県宅地建物取引業協会から広報車、天幕の寄贈
平成 30 年	9 月	* 南国市岡豊町小蓮 448 番地に血液センターの新社屋が竣工
平成 31 年	1 月	* 血液センターが新社屋へ移転し業務を開始
令和元年	8 月	* 高知県西南部地域における血液製剤の備蓄に関する契約の解除
令和 4 年	12 月	* (財) 日本宝くじ協会から採血車「宝くじ 2 号」の寄贈
令和 5 年	3 月	* (照射) 赤血球液・LR「日赤」の有効期間変更 「採血後 21 日間」から「採血後 28 日間」に変更
	5 月	* 献血受付時の体重測定の開始 固定施設（献血ルーム） 5 月 1 日（月） 移動施設（献血バス） 9 月 25 日（月）

2 献血運動推進全国大会開催状況

開催年月日	回 別	開催場所	厚生大臣（厚生労働大臣）感謝状受賞者（本県分）
S40. 9. 5	第1回	東京都	
41. 9. 14	第2回	名古屋市	
42. 9. 18	第3回	大阪市	
43. 9. 10	第4回	福岡市	南国市献血推進会
44. 9. 5	第5回	秋田市	土佐山田町献血推進協議会
45. 7. 1	第6回	岡山市	土佐清水市献血推進協議会
46. 7. 8	第7回	金沢市	大正町献血推進協議会・物部村献血推進会
47. 7. 11	第8回	札幌市	宿毛市献血推進会・本川村献血推進会
48. 7. 11	第9回	鹿児島市	中村市献血推進会・梶原町献血推進会
49. 7. 17	第10回	松山市	吉川村献血推進協議会・佐賀町献血推進協議会・株式会社高知新聞社
50. 7. 17	第11回	千葉市	安芸市献血推進会・西土佐村献血推進協議会・芸西村献血推進会
51. 7. 14	第12回	岐阜市	香北町献血推進会・十和村献血推進協議会・大川村献血推進会
52. 7. 20	第13回	仙台市	須崎市献血推進会・野市町献血推進会・三原村献血推進会
53. 7. 19	第14回	鳥取市	仁淀村献血推進会・馬路村献血推進会・中土佐町献血推進会
54. 7. 18	第15回	横浜市	日高村献血推進会・田野町献血推進会・大阪セメント株式会社高知工場献血推進会
55. 7. 23	第16回	神戸市	越知町献血推進会・土佐山村献血協力会・国立高知工業高等専門学校生徒会
56. 7. 15	第17回	高松市	夜須町献血推進会・佐川町献血推進会・ミロク製作所献血協力会
57. 7. 21	第18回	静岡市	香我美町献血推進協議会・土佐町献血推進会・安田町献血推進会・セイレイ工業高知工場献血協力会・高知県立窪川高等学校
58. 7. 14	第19回	那覇市	東洋町献血推進会・東津野村結核及び献血推進婦人協議会・鏡村献血推進会・四国電力血液助け合いの会・明德高等学校
59. 7. 25	第20回	東京都	高知市献血推進会・奈半利町献血推進会・東洋電化献血協力会・高知中央高等学校
60. 7. 17	第21回	青森市	葉山村献血推進会・高知大学献血協力会・高知郵便局献血協力会
61. 7. 23	第22回	高知市	大方町献血推進協議会・窪川町献血推進会・高知大丸健康保険組合血液共済献血協力会・高知三菱自動車販売株式会社・清和女子高等学校
62. 7. 8	第23回	浦和市	赤岡町献血推進会・伊野町献血推進会・大野見村献血推進会・社団法人日本青年会議所高知ブロック協議会・全電通労働組合高知県支部輸血センター

開催年月日	回 別	開催場所	厚生大臣（厚生労働大臣）感謝状受賞者（本県分）
S63. 7. 6	第24回	奈良市	池川町献血推進会・吾北村献血推進会・本山町献血推進会・土佐市立土佐市民病院献血協力会・全日本自動車販売労働組合献血会高知日産自動車支部
H元. 7.19	第25回	新潟市	大豊町献血推進会・吾川村献血推進会・国立高知病院附属看護学校・高知県立実践農業大学校・高知スーパーグループ献血協力会
			※ 厚生大臣表彰制度始まる
2. 7.11	第26回	熊本市	表彰状：大阪セメント株式会社高知工場献血協力会 感謝状：大月町献血推進協議会・大三株式会社・株式会社西武百貨店とでん西武・四国銀行献血会・高知県立総合看護専門学校
3. 7.17	第27回	長野市	表彰状：高知中央郵便局献血協力会 感謝状：NHK献血会・高知女子大学・日産サニー高知販売株式会社・室戸市献血推進協議会
4. 7.15	第28回	広島市	表彰状：大正町献血推進協議会・野市町献血推進会 感謝状：土佐市献血推進会・高知県庁職員献血協力会・四国運輸労働組合献血互助会・日本紙業株式会社高知工場・高知トヨペット株式会社
5. 7.14	第29回	盛岡市	表彰状：四国電力株式会社血液助け合いの会 感謝状：ミタニ建設工業株式会社・高知黒潮ライオンズクラブ・天理教高知教区献血推進会・松下寿電子工業株式会社須崎工場
6. 7.21	第30回	四日市市	表彰状：田野町献血推進会 感謝状：国立高知医科大学・高知東ライオンズクラブ・医療法人仁生会細木病院・高知青果商業組合青年部
7. 7.12	第31回	甲府市	表彰状：国立高知工業高等専門学校学生会 感謝状：株式会社高知銀行・高知学園短期大学・高知卸商センター協同組合・高知県農協総合病院
8. 7.25	第32回	佐賀市	表彰状：東洋電化工業株式会社 感謝状：高知県医師会准看護学院・株式会社ハイパープラザ・土佐電気鉄道株式会社・トヨタカローラ高知株式会社・土佐ライオンズクラブ
9. 7.23	第33回	徳島市	表彰状：国立高知大学・日高村献血推進会 感謝状：窪川ライオンズクラブ・土佐清水ライオンズクラブ・医療法人青雲会・株式会社けんかま・高知県警察本部運転免許センター

開催年月日	回 別	開催場所	厚生大臣（厚生労働大臣）感謝状受賞者（本県分）
H10. 8. 3	第34回	福島市	表彰状：南国市献血推進会 感謝状：医療法人近森会近森病院・株式会社四電工高知支店・高知県印刷工業組合・高知県生命保険協会・宿毛ライオンズクラブ・佐川越知ライオンズクラブ
11. 7. 22	第35回	富山市	表彰状：セイレイ工業株式会社高知工場 感謝状：医療法人新松田会高知医療学院・三菱電機株式会社高知工場・協同組合須崎ショッピングセンター・中村ライオンズクラブ・浦松金吉
12. 7. 12	第36回	京都市	表彰状：土佐市立土佐市民病院 感謝状：錦山観光開発株式会社・四国日産ディーゼル株式会社高知販売本社・株式会社轟組・宇治電化学工業株式会社・高知市立旭小学校PTA・四国運輸局高知陸運支局
13. 7. 19	第37回	山口市	表彰状：株式会社四国銀行・高知県立総合看護専門学校 感謝状：入交産業株式会社・高知福祉専門学校・学校法人三谷学園RKC調理師学校・サティ食品館クリハラ・中澤氏家薬業株式会社
14. 7. 11	第38回	宮崎市	表彰状：株式会社ミロク製作所献血協力会 感謝状：医療法人長生会大井田病院・高知日野自動車株式会社・高知警察署・四国電力株式会社中村支店・陸上自衛隊高知駐屯地
15. 7. 10	第39回	水戸市	表彰状：国立高知病院附属看護学校 感謝状：医療法人野並会高知病院・高知県消防学校・高知県立高知高等技術学校・土佐ガス株式会社・室戸ライオンズクラブ
16. 7. 15	第40回	大分市	表彰状：学校法人清和学園清和女子高等学校 感謝状：土佐あき農業協同組合・農林水産省中四国農政局高知農政事務所・高知職業能力開発促進センター・学校法人龍馬学園高知情報ビジネス専門学校・株式会社SSK
17. 7. 13	第41回	和歌山県	表彰状：高知黒潮ライオンズクラブ 感謝状：医療法人新松田会愛宕病院・医療法人松田会松田病院・高知南警察署・国立大学法人高知大学農学部・協同組合テクノ高知・太平洋セメント株式会社土佐工場
18. 7. 13	第42回	前橋市	表彰状：日本大昭和板紙西日本株式会社高知工場 感謝状：医療法人久会凶南病院・学校法人龍馬学園国際デザイン・ビューティカレッジ・高知カシオ株式会社・大正ライオンズクラブ・ニッポン高度紙工業株式会社・門田 理博
19. 7. 4	第43回	越前市	表彰状：国立大学法人高知大学医学部 感謝状：高知県交通株式会社・高知税務署

開催年月日	回 別	開催場所	厚生大臣（厚生労働大臣）感謝状受賞者（本県分）
H20. 7. 17	第44回	宇都宮市	表彰状：特定医療法人仁生会 細木病院 感謝状：医療法人瑞洋会 田中整形外科病院
21. 7. 16	第45回	佐世保市	表彰状：高知県生命保険協会 感謝状：高知桜ライオンズクラブ・伊野ライオンズクラブ
22. 7. 15	第46回	松江市	表彰状：ミタニ建設工業株式会社 感謝状：高知北ライオンズクラブ・須崎ライオンズクラブ
23. 7. 14	第47回	山形市	表彰状：社会医療法人近森会 近森病院 感謝状：医療法人仁栄会 島津病院・学校法人すみれ学園・四国医療工学専門学校
24. 7. 24	第48回	大津市	表彰状：土佐電気鉄道株式会社 感謝状：学校法人日翔学園 高知開成専門学校・イオンモール株式会社イオンモール高知
25. 7. 5	第49回	福岡市	表彰状：浦松 金吉・土佐清水ライオンズクラブ・ルネサスエレクトロニクス株式会社高知事業所 感謝状：社会福祉法人長い坂の会 平成福祉専門学校、医療法人高潮会 潮江高橋病院
26. 7. 10	第50回	愛知県	該当なし
27. 7. 17	第51回	大阪府	台風のため開催中止 表彰状：高知県厚生農業協同組合連合会 J A高知病院・土佐ライオンズクラブ・学校法人龍馬学園 高知情報ビジネス専門学校 感謝状：学校法人高知学園 高知リハビリテーション学院・高知県遊技業協同組合
28. 7. 7	第52回	東京都	表彰状：学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校・国立大学法人 高知大学 農林海洋科学部 感謝状：中土佐ライオンズクラブ
29. 7. 12	第53回	秋田県	表彰状：門田 理博・学校法人龍馬学園 国際デザイン・ビューティカレッジ 感謝状：医療法人 白菊会 白菊園病院・土佐信用組合・中澤氏家薬業株式会社・高知県警察本部・高知県警察学校

開催年月日	回 別	開催場所	厚生大臣（厚生労働大臣）感謝状受賞者（本県分）
H30. 7. 12	第 54 回	岡山県	表彰状：協同組合テクノ高知 感謝状：旭食品株式会社 学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 高知ソフトボールリーグ
R 元. 7. 11	第 55 回	石川県	表彰状：学校法人三谷学園 RKC 調理製菓専門学校 感謝状：学校法人土佐リハ学院 土佐リハビリテーションカレッジ
2. 6. 24	第 56 回	北海道	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止 表彰状：医療法人新松田会愛宕病院 感謝状：四国銀行事務センター 大和ハウス工業株式会社高知支店
3. 9. 9	第 57 回	鹿児島県	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止 表彰状：高知トヨペット株式会社 感謝状：株式会社 垣内 医療法人尚賢会 高知高須病院
4. 7. 14	第 58 回	愛媛県	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場とオンライン視 聴によるハイブリッド開催 表彰状：トヨタカローラ高知株式会社
5. 7. 26	第 59 回	千葉県	表彰状：イオンモール株式会社イオンモール高知 感謝状：独立行政法人国立病院機構高知病院 株式会社テレビ高知 四国情報管理センター株式会社
6. 7. 18	第 60 回	岐阜県	表彰状：防衛省 陸上自衛隊 高知駐屯地 感謝状：柳生基礎センター株式会社 西日本高速道路株式会社 四国支社 高知高速道路事務所

3 高知県献血推進県民大会開催状況及び表彰式開催状況

開催年月日	回別	開催場所	参加者	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
S44. 9. 5	(回) 1	農協会館	(人) 600	西村省三 中村市献血推進会 香我美町献血推進協議会 大阪セメント株式会社高知工場
45. 7. 15	2	農協会館	600	安芸市献血推進会 物部村献血推進会 大正町献血推進協議会 高知市高須地区献血協力会 高知市秦地区献血協力会 土佐市民病院献血協力会 日本青年会議所高知県協議会
46. 7. 21	3	農協会館	600	杉本培夫 有沢芳郎 宿毛市献血推進会 梶原町献血推進会 本川村献血推進会 高知市御豊瀬地区献血協力会 四国電力血液助け合いの会
47. 9. 27	4	農協会館	600	佐賀町献血推進協議会 芸西村献血推進会 吉川村献血推進協議会 土佐山村献血協力会 三星紙業献血協力会
48. 7. 25	5	農協会館	600	須崎市献血推進協議会 田野町献血推進会 中土佐町献血推進会 大川村献血推進会 西土佐村献血推進協議会 株式会社高知新聞社
49. 7. 31	6	農協会館	600	馬路村献血推進会 三原村献血推進会 十和村献血推進協議会 大方町献血推進協議会 四国銀行献血会 香北献血推進会 高知市労連輸血センター
50. 7. 23	7	農協会館	600	大月町献血推進協議会 東洋町献血推進会 野市町献血推進会 仁淀村献血推進会 伊野町献血推進会 ミロク製作所献血協力会 国立高知工業高等専門学校学生会

開催年月日	回別	開催場所	参加者	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
S51. 9. 22	8	農協会館	600	奈半利町献血推進会 赤岡町献血推進会 日高村献血推進会 大野見村献血推進会 高知中央高等学校 協和農機株式会社献血協力会 全電通労働組合高知県支部輸血センター
52. 8. 2	9	農協会館	600	安田町献血推進会 土佐町献血推進会 越知町献血推進会 窪川町献血推進会 高知大学献血協力会 都築紡績株式会社高知工場 高知市一ツ橋小学校区献血友の会 大阪セメント株式会社高知工場献血協力会
53. 7. 28	10	農協会館	500	本山町献血推進会 高知郵便局献血協力会 夜須町献血推進会 大三株式会社献血協力会 佐川町献血推進会 敷島紡績労働組合高知支部 北川村献血推進会
54. 7. 24	11	県民文化ホール	500	吾北村献血推進会 高知相互銀行献血協力会 池川町献血推進会 香美郡献血推進連合会 大丸健康保険組合血液共済献血協力会 土佐清水市献血推進協議会 自動車労連販労献血会高知日産支部
55. 8. 12	12	県民文化ホール	500	室戸市献血推進協議会 土佐山田町献血推進会 葉山村献血推進会 東津野結核及び献血推進婦人協議会 東洋電化献血協力会 日産サニー高知販売株式会社 高知県立窪川高等学校 明德高等学校
56. 7. 24	13	県民文化ホール	500	大豊町献血推進協議会 春野町献血推進会 鏡村献血推進会 吾川村献血推進会 日本特紙工業株式会社 明治乳業健康保険組合献血協力会 高知トヨタ自動車株式会社献血協力会
57. 7. 19	14	県民文化ホール	500	堀野 涉 高知県庁職員献血協力会 中屋美三雄 NHK献血会 日鉄鉱業株式会社鳥形山鉱業所 株式会社とでん西武百貨店 四国運輸労働組合献血互助会 高知トヨペット株式会社 日本セメント献血協力会 ニッポン高度紙工業株式会社 南国パルプ工業株式会社

開催年月日	回別	開催場所	参加者	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
S58. 7.19	15	県民文化ホール	500	片岡良諒 岩元瑞穂 上森延章 高知市献血推進会 専売高知献血協力会 国立高知病院附属高等看護学校 株式会社ニチイ高知ショッピングデパート 高知三菱自動車販売株式会社 高知県立実践農業大学校 株式会社高知放送 株式会社テレビ高知 株式会社高知スーパーマーケット
59. 7.17	16	RKCホール	750	井上善三郎 眞土チト 司牡丹酒造株式会社 佐川越知ライオンズクラブ 土佐清水ライオンズクラブ 高知黒潮ライオンズクラブ 東部生コンクリート株式会社 サニーマート株式会社一宮店 松下寿電子工業株式会社 高知技能開発センター 高知女子大学 土佐女子高等学校 高知県立看護学園 高知県医師会准看護学院 ハイパープラザ高須株式会社
60. 7.26	献血功労団体及び個人に対する感謝状贈呈式 (県議会第一委員会室)			濱崎艶子 有限会社高吾カーセンター 東津野村役場職員会 高知東ライオンズクラブ 窪川ライオンズクラブ 医療法人仁生会細木病院 入交産業株式会社 トヨタカローラ高知株式会社 清和女子高等学校 新堀小学校区献血協力会 天理教高知教区献血推進会 株式会社ハイパープラザ大津店 株式会社サンプラザ高知南店
61. 7.23	第22回献血運動推進全国大会 (県民文化ホール) ※S61年度より知事感謝状となる。		1,500	山脇澄子 宇治電化学工業株式会社 株式会社サンシャインチェーン本部 サニーマート株式会社 国友商事株式会社 高知医科大学 高知学園短期大学 高知県印刷工業組合 高知県交通株式会社 高知県農協総合病院 高知女子専門学校 江陽小学校PTA サンシャイン株式会社 宿毛ライオンズクラブ 高知ダイハツ販売株式会社 大洋建設株式会社 土佐電気鉄道株式会社 土佐山村消防団
62. 7.21	17	RKCホール	600	上田実穂 佐藤敏春 医療法人厚愛会高知城東病院 協同組合須崎ショッピングセンター 高知県立高知女子大学保育短期大学部 土佐山田町農業協同組合Aコープとさやまだ 土佐ライオンズクラブ 日本紙業株式会社高知工場 中田和敬 土佐市献血推進会 協同組合サンモール 高知県蒲鉾株式会社

開催年月日	回別	開催場所	参加者	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
S63. 7. 15	18	県民文化ホール	500	岩川 誠良 河添 忠勝 森下 稔男 医療法人久会岡南病院 株式会社ナンコクスーパー 株式会社ショッパーズプラザコーチ 高知工作センター協同組合 高知大学南浜寮 中野自動車有限会社 日産ディーゼル南四国販売株式会社 ミタニ建設工業株式会社 和光薬業株式会社 浦松 金吉 不破 栄泰 旭食品高知西販売株式会社 高知県理容環境衛生同業組合 高知学園短期大学 高知市立旭小学校PTA 須崎生コンクリート株式会社 日本銀行高知支店
H元. 7. 14	19	県民文化ホール	500	蒲原 淳 中嶋 覚 鍋島 和子 医療法人尚腎会高知高須病院 医療法人高田会高知記念病院 サニーマーケットサニーランド店 窪川町農業協同組合 高知卸商センター協同組合 高知黒潮ライオンズクラブ 高知食糧株式会社 高知青果商業協同組合青年部 高知県運転免許センター NTT須崎営業所 サニーマーケット瀬戸店 野市町連合青年団
2. 7. 13	20	県民文化ホール	500	中平 善一郎 北村 笑 森 忠雄 高知県立宿毛病院 四国電力株式会社窪川営業所 須崎市農業協同組合 株式会社サンプラザ 株式会社トーヨー 高知県生命保険協会 高知市農業協同組合潮江支所 四国電力株式会社佐川事務所 日章立田婦人会
3. 7. 12	21	県民文化ホール	500	山下 とも子 医療法人青雲会清和病院 医療法人近森会近森病院 土佐高等学校 馬路村森林組合馬路特産工芸センター 株式会社シキボウ日高 株式会社轟組 株式会社四電工 高知警察署 全日本ロータス同友会高知支部
4. 7. 23	22	県民文化ホール	500	末政 禮子 医療法人宇都宮会第一病院 医療法人新松田会高知医療学院 医療法人瑞洋会田中整形外科病院 株式会社1パーセントクンの店 高知県経済農業協同組合連合会 島津外科胃腸科病院 株式会社泉井鉄工所 株式会社サンシャイン佐川 吾川村消防団 四国運輸局高知陸運支局 錦山観光開発株式会社 農林水産省高知食糧事務所

開催年月日	回別	開催場所	参加者	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
H5. 7. 23	23	県民文化ホール	500	室戸ライオンズクラブ 株式会社サンプラザ佐川ショッピングセンター 高知県医薬品配置協議会 三菱電機株式会社高知工場 中澤薬業株式会社 明星産商株式会社 安芸市農業協同組合 高知日野自動車株式会社 土佐ガス株式会社
6. 7. 21	24	県民文化ホール	500	門田理博 高知大学農学部 高知福祉専門学校 高知県消防学校 中村ライオンズクラブ ファクトリーコスモ有限会社 RKC調理師学校 四国建機株式会社 NTT土佐中村支店 サングリーンクリハラ
7. 7. 21	献血功労団体及び個人に対する感謝状贈呈式 (県議会第一委員会室)			北村武 陸上自衛隊高知駐屯地 医療法人長生会大井田病院 四国電力株式会社中村支店 日本電信電話株式会社四国建設技術センター高知技術センター 株式会社室戸ショッピングセンター 高知南警察署 大旺建設株式会社 高知県立高知高等技術学校
8. 7. 27	献血功労団体及び個人に対する感謝状贈呈式 (高知市中央公園)			西森温光 株式会社末広ショッピングセンター 立正校成会須崎教会 高知税務署 南四国三菱自動車販売株式会社 医療法人野並会高知病院 山本春子 協同組合高知機械工業団地 医療法人愛和会高知愛和病院
9. 7. 29	献血功労団体及び個人に対する感謝状贈呈式 (高知県市町村職員共済会館)			竹内淳輔 医療法人松田会松田病院 株式会社溝渕石油店 株式会社野市ショッピングセンター サンプラザ株式会社ショッピングセンターポプラ店 土佐カントリークラブ 大崎末美 医療法人新松田会愛宕病院 梅花堂薬品株式会社 医療法人芳公会香長中央病院
10. 8. 3	献血功労団体及び個人に対する感謝状贈呈式 (高知会館)			五十嵐峰子 医療法人臼井会田野病院 学校法人龍馬学園高知情報ビジネス専門学校 篠原化学薬品株式会社 高幡消防組合須崎消防署 島内瑞枝 医療法人緑風会海里マリン病院 協同組合テクノ高知 中村市立具同小学校PTA 小西保

開催年月日	開催場所	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
H11. 8. 5	サンライズホテル	山脇栄子 株式会社赤岡青果市場 学校法人龍馬学園国際デザインカレッジ 伊野ライオンズクラブ 中土佐ライオンズクラブ 大正ライオンズクラブ 小松美紀 山田消防組合土佐山田消防団 医療法人五月会須崎くろしお病院 医療法人川村会くぼかわ病院
12. 8. 4	高知縣市町村職員共済会館	高知桜ライオンズクラブ 国立高知病院 高知市水道局 高知安芸ライオンズクラブ 高知空港ビル株式会社 ホームセンターマルニ中村店 高知南ライオンズクラブ 医療法人清生園清生園病院 高知県学生献血クロス倶楽部 高知カシオ株式会社 株式会社フタガミ 医療法人光陽会関田病院
13. 8. 3	高知縣市町村職員共済会館	松下清心 高知ライオンズクラブ 高知桂ライオンズクラブ 高知柏ライオンズクラブ 高知北ライオンズクラブ 四国職業能力開発大学校附属高知職業能力開発短期大学校 医療法人同仁会同仁病院 平成福祉専門学校 野市整形外科病院 高知鷹城ライオンズクラブ 高知中央ライオンズクラブ 高知鏡川ライオンズクラブ 室戸漁業協同組合 高知市立旭東小学校 社団法人高知県建設業協会
14. 8. 7	高知縣市町村職員共済会館	山本博憲 社団法人高知県トラック協会 社団法人高知県法人会連合会 土佐香南ライオンズクラブ グリーンフィールドゴルフ倶楽部 学校法人土佐女子学園土佐女子短期大学 土佐リハビリテーションカレッジ 黒潮福祉看護専門学校 南国市農業協同組合 医療法人公世会野市中央病院
15. 8. 4	サンライズホテル	山脇志郎 医療法人白菊会白菊園病院 医療法人つくし会南国病院 大豊ライオンズクラブ 高知はた農業協同組合 須崎ライオンズクラブ 富士鍛工株式会社室戸工場 医療法人高潮会潮江高橋病院 大方ライオンズクラブ 株式会社サニーマート清水店 高知りょうまライオンズクラブ 中村警察署

開催年月日	開催場所	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
H16. 8. 6	サンライズホテル	旭食品株式会社宿毛支店 医療法人治久会もみのき病院 医療法人前田会前田病院 学校法人高知工科大学 学校法人すみれ学園四国医療工学専門学校 株式会社サニーマートサニーアクシス南国店 株式会社フジ須崎店 高知県医師会看護専門学校
17. 8. 8	高知県庁正庁ホール	森田理運 医療法人みつる会高知脳神経外科病院 学校法人旭学園高知コンピューター専門学校 学校法人高知学園高知リハビリテーション学院 株式会社フジフジグラン四万十 高知県警察本部 土佐鶴酒造株式会社 土佐本山ライオンズクラブ 土佐山田ライオンズクラブ 南国市献血協力会
18. 8. 8	高知県庁正庁ホール	中根順一 高知市神田事業主協会 高知市ハイヤー協同組合 高知理容美容専門学校 東洋精密機械株式会社 立正校成会高知教会
19. 8. 10	高知県庁正庁ホール	イオンモール株式会社 イオン高知ショッピングセンター 厚生年金高知リハビリテーション病院 高知県遊技業協同組合 山本貴金属地金株式会社
20. 8. 6	高知県庁2階 第一応接室	学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 高知県警察学校 高知県立幡多けんみん病院 南国ライオンズクラブ
21. 8. 3	高知県庁2階 第一応接室	医療法人防治会いずみの病院 医療法人精華園海辺の杜ホスピタル 四国森林管理局 医療法人藤原会藤原病院
22. 8. 2	共済会館 COMMUNITY SQUARE	藤原利彦 四国情報管理センター株式会社 四国ガス株式会社高知支店 学校法人土佐明青学園土佐情報経理専門学校 株式会社四国銀行事務センター

開催年月日	開催場所	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
H23. 8. 1	共済会館 COMMUNITY SQUARE	大和ハウス工業株式会社高知支店 株式会社ヒワサキ
24. 8. 1	共済会館 COMMUNITY SQUARE	医療法人岡村会 岡村病院 高知ソフトボールリーグ 高知富士通テクノポート
25. 8. 29	高知県庁2階 第二応接室	四国通建株式会社 高知支店 高知県園芸農業協同組合連合会 株式会社トリムエレクトリックマシナリー 株式会社フジ フジグラン野市
26. 8. 28	高知県庁2階 第一応接室	西日本高速道路株式会社四国支社 高知高速道路事務所
27. 8. 27	高知県庁2階 第二応接室	株式会社 垣内 宿毛ライオンズクラブ サニーマート四万十店
28. 8. 29	高知県庁2階 第二応接室	土佐信用組合 高知ダイハツ販売株式会社
29. 8. 23	高知県庁2階 第二応接室	株式会社南国ミロク梶原工場 株式会社 栄光工業
30. 9. 12	高知県庁2階 第二応接室	社会福祉法人 土佐希望の家 柳生基礎センター株式会社
R元. 9. 9	高知県庁2階 第一応接室	ミロク機械株式会社 株式会社 太陽

開催年月日	開催場所	高知県献血推進協議会長・高知県知事感謝状受賞者
R2.9.16	高知県庁2階 第一応接室	新高知重工株式会社 エム・セテック株式会社高知工場
3.9.15	高知県庁2階 第一応接室	五台山石油会
4.9.13	高知県庁2階 第一応接室	南国警察署 高知さんさんテレビ株式会社 株式会社第一コンサルタンツ
5.9.7	高知県庁2階 第二応接室	高知県・高知市病院企業団立高知医療センター
6.9.9	高知県庁2階 第二応接室	高知東郵便局

4 献血者及び血液製剤供給本数の推移

献血事業開始以来の献血者・供給本数は、次のとおりであった。

献血者及び供給本数の推移

年 度	献 血 状 況				県内供給 本数(本)
	献血者(人)	対前年度	県人口(人)	人口に対する 献血率(%)	
昭和 40	1,143		812,714	0.14	1,098
41	5,203	4.55	807,710	0.64	4,868
42	8,598	1.65	804,500	1.07	8,388
43	14,348	1.67	798,472	1.80	12,564
44	18,265	1.27	791,420	2.31	15,559
45	18,960	1.04	786,882	2.41	16,474
46	20,093	1.06	785,472	2.56	16,814
47	23,182	1.15	790,031	2.93	18,424
48	26,284	1.13	794,296	3.31	18,757
49	28,307	1.08	797,645	3.55	19,703
50	30,379	1.07	808,397	3.76	22,252
51	32,745	1.08	813,826	4.02	24,739
52	38,123	1.16	818,765	4.66	28,990
53	36,554	0.96	823,501	4.44	29,974
54	38,560	1.05	827,685	4.66	32,935
55	44,767	1.16	831,275	5.39	36,644
56	44,242	0.99	832,823	5.31	49,004
57	50,724	1.15	833,817	6.08	64,131
58	53,636	1.06	834,528	6.43	85,179
59	59,392	1.11	834,925	7.11	87,306
60	61,758	1.04	839,784	7.35	96,728
61	57,693	0.93	838,369	6.88	99,496
62	59,753	1.04	837,091	7.14	94,063
63	59,122	0.99	834,075	7.09	94,571
平成元	58,195	0.98	833,031	6.99	94,428
2	58,644	1.01	825,057	7.11	86,691
3	58,776	1.00	828,611	7.09	87,740
4	56,708	0.96	818,250	6.93	89,633
5	51,310	0.90	816,291	6.29	87,541
6	49,465	0.96	815,476	6.07	95,740
7	43,402	0.88	816,704	5.31	102,190
8	42,419	0.98	815,519	5.20	108,744

平成 9	41,160	0.97	814,051	5.06	101,573
10	44,730	1.09	812,458	5.51	102,246
11	42,847	0.96	810,879	5.28	107,150
12	39,316	0.92	813,980	4.83	98,955
13	38,748	0.99	812,450	4.77	97,845
14	41,677	1.08	810,237	5.14	105,413
15	42,028	1.01	806,673	5.21	111,626
16	39,551	0.94	802,954	4.93	108,669
17	39,581	1.00	796,292	4.97	114,322
18	35,734	0.90	798,244	4.48	111,091
19	34,443	0.96	790,576	4.36	99,595
20	35,878	1.04	782,626	4.58	116,945
21	39,138	1.09	776,277	5.04	120,432
22	39,394	1.01	771,473	5.11	114,544
23	37,517	0.95	765,515	4.90	118,184
24	33,845	0.90	752,042	4.50	120,607
25	33,592	0.99	745,070	4.51	121,827
26	30,983	0.92	737,761	4.20	124,069
27	30,655	0.99	728,461	4.21	119,864
28	29,707	0.97	720,907	4.12	117,223
29	27,522	0.93	713,465	3.86	114,852
30	26,932	0.98	705,880	3.82	109,860
令和元	27,149	1.01	697,674	3.89	103,841
2	29,427	1.08	689,785	4.27	102,960
3	28,624	0.97	684,049	4.18	108,627
4	28,897	1.01	675,710	4.28	105,732
5	28,854	0.99	655,698	4.40	103,738
6	27,710	0.96	644,881	4.30	97,855
合 計	2,226,389				4,713,158

- (注) 1 昭和40, 45, 50, 60, 平成2, 7, 12, 17年度は国勢調査による10月1日現在の人口、その他は16年度までは県統計課推計による10月1日現在の推計人口、18年度からは10月末現在の住民基本台帳関係人口、24年度からは10月1日現在の推計人口。
- 2 昭和60年度以降の供給本数は、
全血献血に由来する製剤は、200mL由来=1、400mL由来=2
成分献血に由来する製剤は、血しょう5単位=5、血小板5単位=5、血小板10単位=10により算定
- 3 平成19年度分以降の供給本数は、FFP-LR1=×1.5、FFP-LR2=×3により算定

5 令和6年度都道府県別献血者数

都道府県	献血者数 (人)	成分						献血対象人口当たりの 献血率 (%)	献血対象人口当たりの 献血率の順位
		成分 (人)	構成比 (%)	400mL (人)	構成比 (%)	200mL (人)	構成比 (%)		
北海道	246,963	53,999	21.9	183,058	74.1	9,906	4.0	7.7	1
青森県	45,073	12,067	26.8	31,943	70.9	1,063	2.4	6.0	30
岩手県	44,377	12,395	27.9	30,792	69.4	1,190	2.7	6.2	24
宮城県	87,585	26,344	30.1	58,817	67.2	2,424	2.8	6.0	30
秋田県	36,424	12,207	33.5	23,526	64.6	691	1.9	6.6	17
山形県	41,157	12,469	30.3	27,923	67.8	765	1.9	6.6	17
福島県	74,212	21,398	28.8	50,752	68.4	2,062	2.8	6.6	17
茨城県	105,929	29,456	27.8	72,909	68.8	3,564	3.4	5.7	40
栃木県	95,283	29,472	30.9	59,358	62.3	6,453	6.8	7.7	1
群馬県	88,505	28,459	32.2	55,992	63.3	4,054	4.6	7.2	5
埼玉県	243,263	65,282	26.8	165,980	68.2	12,001	4.9	5.0	47
千葉県	238,705	73,892	31.0	158,985	66.6	5,828	2.4	5.8	38
東京都	586,219	206,778	35.3	360,022	61.4	19,419	3.3	6.0	30
神奈川県	338,052	116,595	34.5	210,852	62.4	10,605	3.1	5.5	44
新潟県	88,978	31,823	35.8	55,544	62.4	1,611	1.8	6.7	14
山梨県	37,019	12,459	33.7	23,807	64.3	753	2.0	7.3	3
長野県	75,869	24,744	32.6	49,943	65.8	1,182	1.6	6.1	26
富山県	39,980	12,111	30.3	26,510	66.3	1,359	3.4	6.3	23
石川県	45,840	17,016	37.1	27,136	59.2	1,688	3.7	6.5	20
福井県	27,521	7,841	28.5	18,764	68.2	916	3.3	5.9	35
岐阜県	66,560	18,614	28.0	44,960	67.5	2,986	4.5	5.4	45
静岡県	128,405	35,907	28.0	87,232	67.9	5,266	4.1	5.6	43
愛知県	290,975	109,726	37.7	173,541	59.6	7,708	2.6	5.9	35
三重県	63,829	25,489	39.9	38,092	59.7	248	0.4	5.7	40
滋賀県	53,298	9,411	17.7	42,526	79.8	1,361	2.6	5.8	38
京都府	108,055	31,898	29.5	75,199	69.6	958	0.9	6.9	9
大阪府	384,385	128,736	33.5	249,331	64.9	6,318	1.6	6.7	14
兵庫県	209,451	58,629	28.0	146,543	70.0	4,279	2.0	6.0	30
奈良県	47,918	13,336	27.8	32,768	68.4	1,814	3.8	5.9	35
和歌山県	41,070	9,136	22.2	30,686	74.7	1,248	3.0	7.3	3
鳥取県	22,978	7,783	33.9	15,146	65.9	49	0.2	7.0	8
島根県	20,445	6,838	33.4	13,549	66.3	58	0.3	5.3	46
岡山県	74,542	23,747	31.9	50,288	67.5	507	0.7	6.5	20
広島県	118,064	41,219	34.9	76,090	64.4	755	0.6	6.8	11
山口県	47,565	8,931	18.8	38,402	80.7	232	0.5	6.1	26
徳島県	26,463	8,192	31.0	18,141	68.6	130	0.5	6.1	26
香川県	35,331	9,763	27.6	25,483	72.1	85	0.2	6.0	30
愛媛県	51,971	16,354	31.5	35,516	68.3	101	0.2	6.5	20
高知県	27,710	8,564	30.9	18,936	68.3	210	0.8	6.9	9
福岡県	220,641	64,767	29.4	155,403	70.4	471	0.2	6.8	11
佐賀県	32,944	12,379	37.6	20,478	62.2	87	0.3	6.7	14
長崎県	53,113	17,523	33.0	35,112	66.1	478	0.9	6.8	11
熊本県	75,006	21,953	29.3	52,506	70.0	547	0.7	7.1	6
大分県	47,702	12,644	26.5	34,811	73.0	247	0.5	7.1	6
宮崎県	38,732	11,820	30.5	26,705	68.9	207	0.5	6.1	26
鹿児島県	58,996	15,198	25.8	43,287	73.4	511	0.9	6.2	24
沖縄県	54,206	15,696	29.0	38,234	70.5	276	0.5	5.7	40
合計	4,987,309	1,551,060	31.1	3,282,124	65.8	124,247	2.5	6.2	

(注) 令和6年度(令和6年4月から令和7年3月)の献血者数、各種別献血者数及び献血人口対象当たりの献血率は、日本赤十字社血液事業本部「令和6年度血液事業年度報(令和6年4月～令和7年3月累計)」掲載データを使用。

6 献血場所

(1) 献血ルーム”ハートピア やまもも”

高知市本町1丁目1番3号 朝日生命高知本町ビル2階 TEL 088-822-5454
血小板成分献血予約専用フリーダイヤル 0120-86-2553

全血献血 9:00～12:30
13:30～16:45
成分献血 9:00～12:30
13:30～15:45
定休日 なし

※年末年始及び大型連休の一部、または、悪天候の影響などにより、お休みさせていただく場合がございます。



(2) 移動採血車

<問い合わせ先>

- ・高知県赤十字血液センター TEL 088-866-6667 (事業部 献血推進課)
- ・各市町村役場
- ・各福祉保健所
- ・高知県薬務衛生課 TEL 088-823-9682 (薬事指導担当)

7 高知県赤十字血液センターの概要 令和8年1月現在

- ・所在地：南国市岡豊町小蓮 448 番地 TEL 088-866-6660 (代)
- ・職員構成 (正規職員)
 - 技術職員 18 名
 - <医師：1 名 (所長) 看護師：16 名 臨床検査技師：1 名>
 - 事務職員 21 名
 - <事業部長：1 名 総務：4 名 献血推進：6 名 学術情報・供給：5 名 献血ルーム：4 名 品質情報：1 名>
- ・車 両：移動採血車 中型 (4 ベッド) 3 台
献血運搬車 (緊急自動車) 8 台
広報車 (軽自動車) 2 台
機材運搬車 1 台
その他車両 (内 1 台軽自動車) 4 台
- ・出張所
高知県赤十字血液センター本町出張所 献血ルーム”ハートピア やまもも”
高知市本町1丁目1番3号 朝日生命高知本町ビル2階 TEL 088-822-5454